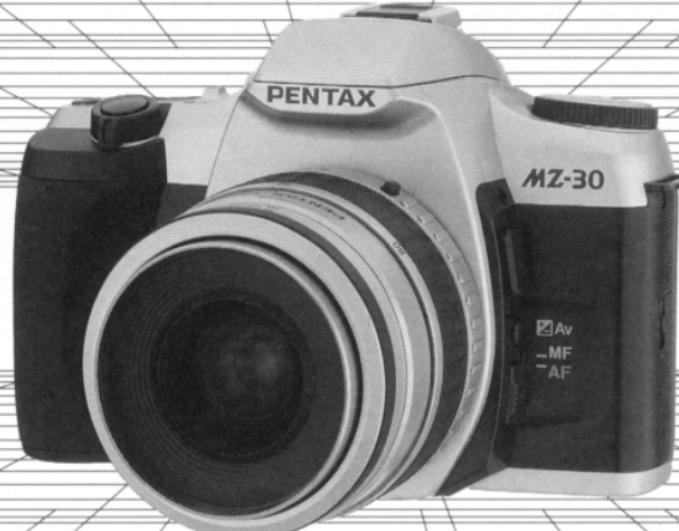


PENTAX® MZ-30 QUARTZ DATE

使用説明書



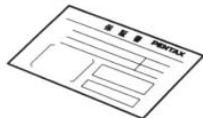
カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

このたびはペンタックスカメラをお買い上げいただき誠にありがとうございます。MZ-30は、撮影条件に合わせてモードを選択するだけで手軽にいろいろな撮影が楽しめるピクチャーモード、ストロボが必要なときに内蔵ストロボが自動的に上がるオートポップアップ機能などを持った小型軽量のオートフォーカス一眼レフカメラです。

このカメラでは、レンズの絞りを **A** 位置にしないとシャッターが切れません。従って、ソフトレンズやMレンズのように絞りに **A** 位置のないレンズや接写リングなどのアクセサリーは使用できません。この場合、ファインダー内の **F--** および、表示パネルの **Av --** が点滅します。

最初にお確かめください (主な同梱品)

このカメラには、以下のものが同梱されています。
開封時に不足しているものがないか、お確かめください。



□ 保証書



□ ファインダーキャップ



□ カメラ



□ ストラップ



□ 電池

カメラを安全にお使いいただくために

1

記号について

操作の方法	←
自動的に動きます	↔↔↔
注目してください	○
点滅します	◆◆◆

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。



警告

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。



注意

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。



は、禁止事項を表わすマークです。



は、注意を促すためのマークです。

△警告

- 🚫 カメラを分解しないでください。カメラ内部には高電圧部があり、感電の危険があります。
- 🚫 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- 🚫 ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- 🚫 望遠レンズを付けた状態で、長時間太陽を見ないでください。目を痛めることができます。特に、レンズ単体では、失明の原因になりますのでご注意ください。
- ⚠️ 電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一、電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

△注意

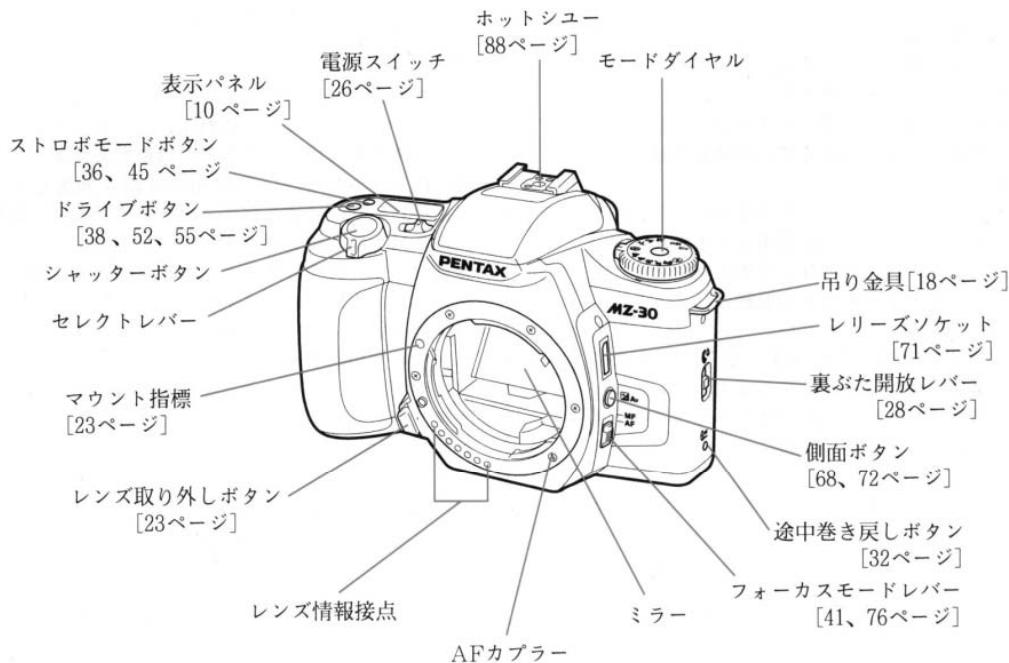
- 🚫 電池をショートさせたり、火の中に入れないとください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- ⚠️ 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。この場合、やけどの十分ご注意ください。

取り扱い上の注意

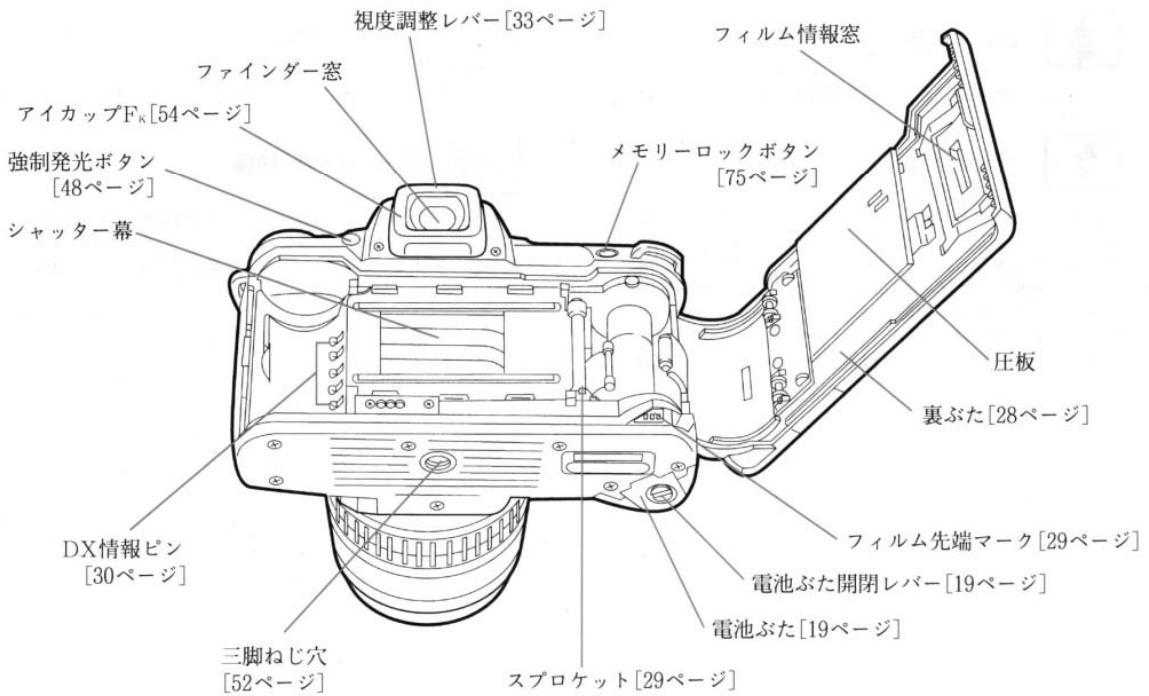
- ・汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- ・高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
- ・防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
- ・このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかるところでは使用できません。
- ・強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動は、クッションなどを入れて保護してください。
- ・約 60°C の高温では液晶表示が黒くなることがあります。常温に戻れば正常になります。
- ・低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもあります。これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。

- ・レンズ、ファインダー窓のホコリはプロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
- ・マクロレンズや望遠レンズを使用したときは、ファインダーの上部がミラー切れによって暗くなることがあります。撮影した写真には影響ありません。
- ・高性能を保つため、1~2年毎に定期点検をしてください。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをしてください。
- ・急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ・カメラの使用温度範囲は -10°C ~ 50°C です。
- ・ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてください。

各部の名称①



各部の名称②





ピント関係

ピントの合う範囲を変えて写真を撮りたい 64



ストロボ関係

- 自動的にストロボを発光させたい 36
- ストロボが発光しないようにしたい 37
- 暗い所で写真を撮りたい 44
- ストロボ撮影で目が赤く写らないようにしたい 46
- 夜景をバックに人物を撮影したい 63、93
- 逆光の人物の顔を明るく写したい 72、92
- 結婚式など広い室内で写真を撮りたい 88



ズーミング関係

写したい物の大きさを大きくしたり小さくしたりしたい 39



露出[明るさ]関係

- カメラ任せでなく明るさを自由に変えて写真を撮りたい 68、72
- 逆光の人物の顔を明るく写したい 72、92
- 撮影前の露出を一時的にカメラに記憶させたい 75



人物撮影関係

- 自分自身も写真に写りたい 52
- 人物撮影をしたい 59
- 集合写真を撮りたい 59
- 夜景をバックに人物を撮影したい 63、93
- 逆光の人物の顔を明るく写したい 72、92



その他

- 写真に日付を入れたい[消したい] 27
- 連続的にシャッターを切りたい 52
- 花などを近くで撮りたい 61
- 動きの速いスポーツ写真を撮りたい 62、66



風景撮影関係

- 風景写真を近くから遠くまできれいに撮りたい 60
- 夜景をバックに人物を撮影したい 63、93
- 夜景を撮りたい 71

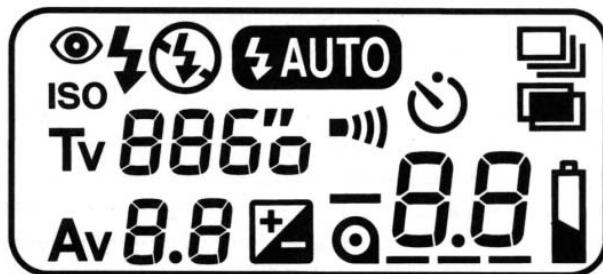
目 次

カメラを安全にお使いいただくために	1
取り扱い上の注意	3
各部の名称	4
こんな写真を撮るには？	6
表示パネルの表示ガイド	10
ファインダー内の表示ガイド	11
・6分割測光について	11
使い方は簡単です	12
各種レンズを組み合わせたときの機能	14
説明書の構成について	16
カメラの準備と基本操作	
ストラップを取り付けます	18
電池を入れます	19
・電池が消耗した場合	22
レンズを取り付けます	23
シャッターボタンの操作	25
電源を入れます	26
写真に日付や時刻を写し込みます	27
フィルムを入れます	28
フィルムの巻き戻しについて	31
・フィルムの途中巻き戻し	32
ファインダーの視度を合わせます	33

基本的な使い方[撮影]	
標準モードに合わせます	34
ストロボオートポップアップします	36
ストロボ発光禁止モードについて	37
1コマ撮影にします	38
ズームレンズの使い方	39
カメラの構え方	40
オートフォーカスを選びます	41
撮影します	42
・動体予測	43
・内蔵ストロボについて	44
・AF補助光について	46
・赤目軽減機能について	46
・ピクチャーモードのストロボ撮影可能距離	47
手動でストロボを上げます	48
ストロボお勧めマークについて	49
不適切レンズの警告表示について	50
応用的な使い方	
ドライブモードを切り替えます	51
・連続撮影	52
・セルフタイマー	52
・多重露出	55

ピクチャーモードの使い方	56
・標準モード	58
・人物モード	59
・風景モード	60
・近接モード	61
・動体モード	62
・夜景モード	63
いろいろな露出モードを選びます	64
・絞り優先自動露出の使い方	64
・シャッター優先自動露出の使い方	66
・マニュアル露出の使い方	68
・バルブの使い方	71
露出補正について	72
電子音の切り替えをします	74
メモリーロックの使い方	75
手動によるピント合わせ	76
・合焦マーク を利用する場合	76
・マット面を利用する場合	78
・スナップインフォーカス撮影について	78
・アクセサリーの注意	79
内蔵ストロボについて、もっと知りたい方へ	80
・F・FAレンズの内蔵ストロボ適合表	82

DXでないフィルム使用時の感度設定方法	84
日付や時刻の写し込みが薄くなったときの電池交換	85
日付や時刻の修正	86
外付けストロボの使い方	88
・赤目軽減機能について	89
・後幕シンクロについて	89
・ストロボの多灯撮影	89
・光量比制御シンクロ撮影	90
日中シンクロについて	92
低速シンクロについて	93
専用アクセサリー[別売り]について	94
絞りとシャッター速度の効果	96
その他について	
こんなときは？	98
主な仕様	100
プログラム線図	102
お問い合わせは次の各サービス窓口へ	104
アフターサービスについて	106
さくいん	107

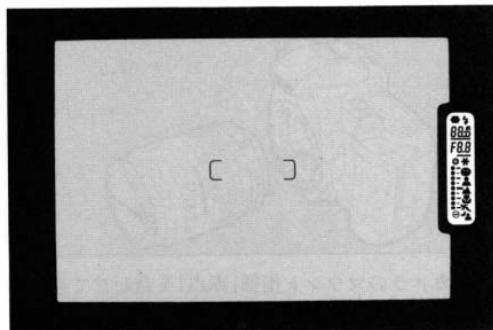


- ⌚ : ストロボ情報[44、49、50 ページ]
- ⌚ : ストロボ発光禁止[37 ページ]
- ⌚ : 赤目軽減機能[46 ページ]
- ⌚ AUTO : ストロボ自動発光[36 ページ]
- ISO : フィルム感度設定[84 ページ]
- Tv 8860 : シャッター速度
- ⌚ : 電池消耗[22 ページ]
- ⌚ : 連続撮影[52 ページ]
- ⌚ : 電子音[74 ページ]

- ⌚ : セルフタイマー[53 ページ]
- ⌚ : 多重露出[55 ページ]
- Av 8.8 : 絞り
- ⌚ : 露出補正[72 ページ]
- ⌚ : フィルム状態[30、31 ページ]
- 8.8 : フィルム枚数、露出補正值
[30、72 ページ]

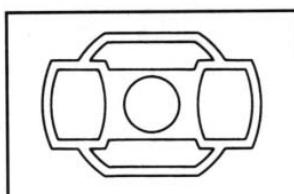
ファインダー内の表示ガイド

11



6分割測光について

このカメラの分割測光では、図のように画面内を6つに分割して明るさを測っていますので、逆光などで人物が暗くなってしまうような条件でも、どの部分にどんな明るさの物があるかをカメラが判断し、人物が暗くならないように自動的に補正を行います。ですから、初心者の方でも安心して撮影を楽しんでいただけます。

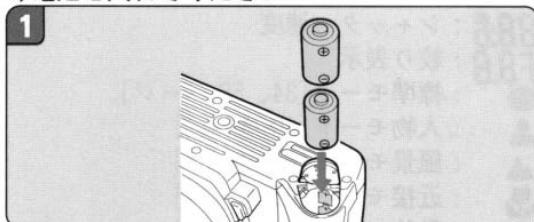


- □ : AFフレーム[42 ページ]
- 8860 : シャッター速度
- F8.8 : 絞り表示
- 標準モード[34、58 ページ]
- 人物モード[59 ページ]
- 風景モード[60 ページ]
- 近接モード[61 ページ]
- 動体モード[62 ページ]
- 夜景モード[63 ページ]
- ストロボ情報[44、49、50 ページ]
- ピント情報[42 ページ]
- メモリーロック[75 ページ]
- バーグラフ[69、72 ページ]

※ サービスサイズのカラープリントでは、画面周辺の物がプリントされないことがあります。構図に少し余裕を持たせてください。

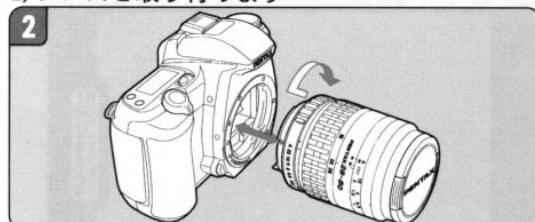
使い方は簡単です！[とにかく撮影してみたい方のために]

1)電池を入れてください



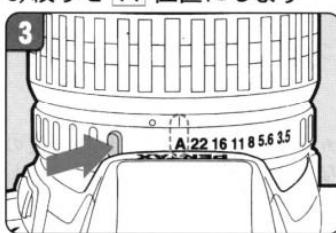
コインなどを使い電池ぶたを開け、リチウム電池CR2を2本入れます。[19 ページ]

2)レンズを取り付けます



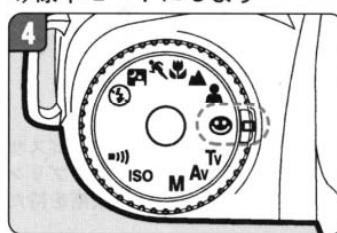
レンズとカメラのマウント指標[赤点]を合わせて右に回してロックします。[23 ページ]

3)絞りを[A]位置にします



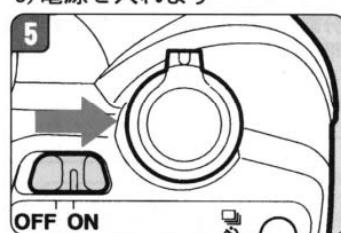
このカメラは、絞りが[A]位置以外では使用できません。[34 ページ]

4)標準モードにします



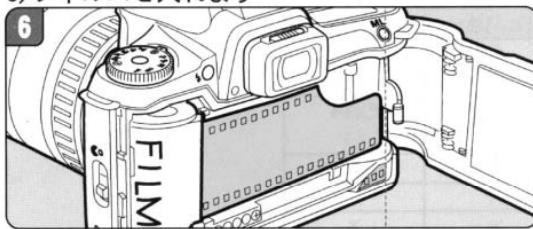
モードダイヤルを、[]位置にします。[34 ページ]

5)電源を入れます



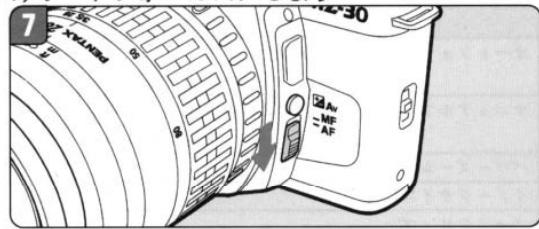
電源スイッチを右にスライドさせます。[26 ページ]

6)フィルムを入れます



フィルム先端を図の位置に合わせて裏ぶたを閉めます。自動的に1枚目まで進みます。[29 ページ]

7)オートフォーカスにします



図のレバーを[AF]にします。[41 ページ]

8)大きさを決めます



ズームリングを回して、写すものの大きさを決めてください。[39 ページ]

9)ピントを合わせて撮影します



ピントを合わせたいものにAFフレーム[]を合わせて撮影します。[42 ページ]。必要なときは自動的にストロボが上がります。



各種レンズを組み合わせたときの機能

機能	レンズ [マウント名]	FAレンズ [K _{AF} 、 K _{AF2}]注1	Fレンズ [K _{AF}]注1	Aレンズ [K _A]
オートフォーカス(レンズ単体使用) (AFアダプター 1.7×使用)	○ —	○ —	○ —	×
マニュアルフォーカス(FI表示の利用)注3 (マット面の利用)	○注4 ○	○注4 ○	○注4 ○	○注4 ○
パワーズーム	×	×	×	×
イメージサイズ指定	×	×	×	×
ズームクリップ	×	×	×	×
露光間ズーム	×	×	×	×
ピクチャーモード	○	○	○	○
絞り優先自動露出	○	○	○	○
シャッター優先自動露出	○	○	○	○
マニュアル露出	○	○	○	○
ストロボオートポップアップ注5	○	○	○	○
プログラムTTLオートストロボ撮影	○	○	○	○
TTLオートストロボ撮影	○	○	○	○
分割測光(6分割)	○	○	○	○

注1: F・FAソフト 85mmF2.8、FAソフト 28mmF2.8 レンズには絞り A 位置がありませんので、シャッターが切れません。

注2: レンズの開放F値がF2.8付近より明るいレンズのみ。[AFアダプターの説明書をご覧ください。]

注3: ファインダー内の合焦マークに従って行なう手動のピント合わせ。[FI=フォーカスインジケーター。]

注4: レンズの開放F値がF5.6付近より明るいレンズのみ。

注5: 露出モードがピクチャーモードの場合のみ。

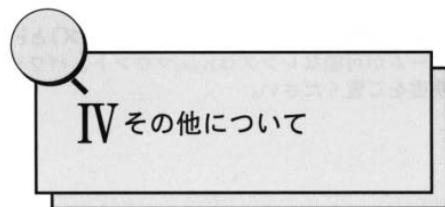
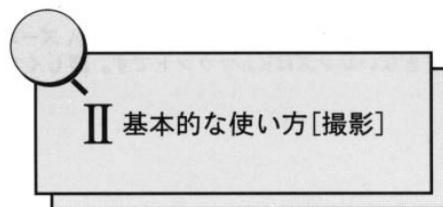
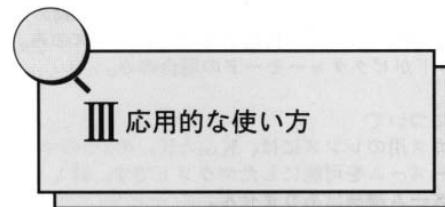
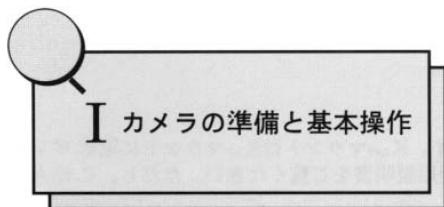
マウント名称について

オートフォーカス用のレンズには、K_{AF2}とK_{AF}の2つのマウントがあります。K_{AF2}マウントはK_{AF}マウントに電源ピンを追加し、パワーズームを可能にしたマウントです。詳しくは、レンズの使用説明書をご覧ください。ただし、このカメラにはパワーズーム機構はありません。

レンズ名称とマウント名称について

FAの単焦点レンズ(ズームでないレンズ)とFレンズのマウントはすべてK_{AF}マウントです。FAズームレンズは、パワーズームが可能なレンズはK_{AF2}マウント、パワーズームのできないレンズはK_{AF}マウントです。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

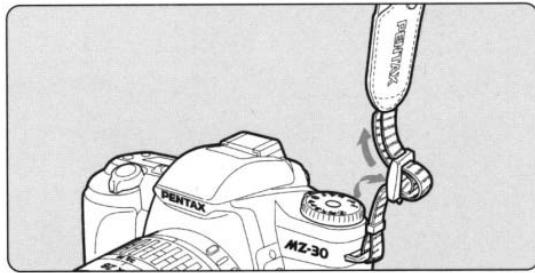
説明書を効果的にご使用いただくために、次のような構成になっています。



- とにかく撮影をしてみたい方は「カメラの準備と基本操作」と「基本的な使い方[撮影]」をお読みください。最小限の操作を知っていただけで簡単な撮影がお楽しみいただけます。

I カメラの準備と基本操作

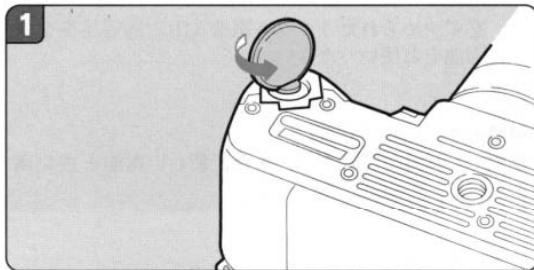
ストラップを取り付けます



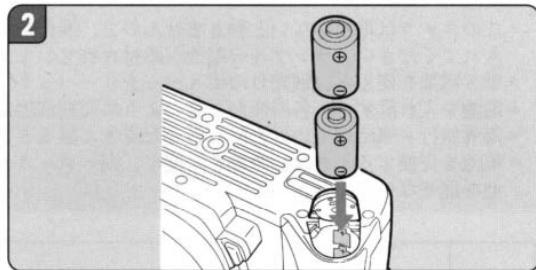
図のように、ストラップを取り付けてください。

- *ストラップの先端が留め具の内側になるように通すとしっかりと取り付けられます。
- *ストラップのポケットは、ファインダーキャップ、レリーズソケットキャップ、ホットシューカバーなどの小物入れとしてご利用ください。
- *ストラップの留め具がカメラに近すぎると、途中巻き戻し、日付や時刻の修正ができなくなりますのでご注意ください。32 ページ、86 ページ、87 ページをご覧ください。

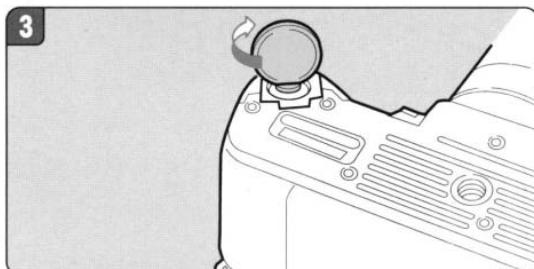
電池を入れます



1. コインなどを使い、電池ぶた開閉レバーを左に回して電池ぶたを開けます。



2. 電池の一側を先に電池を 2 個入れてください。



3. コインなどを使い、電池ぶた開閉レバーを押し込みながら右に回してロックします。

- * このカメラは電池がないと動きませんので、操作をする前には、必ず決められたリチウム電池[CR2]同等品を2個入れてください。サンプルの電池が添付されていますので、この電池をお使いください。
- * 単3電池を使える、別売りの単3バッテリーパックF_cもあります。
- * 電池を入れ直すと、各機能が下表のように初期状態に戻ります。
- * 海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。
- * 電池を交換するときは、全部を一度に、同一メーカー・同一種類で行なってください。また、新しい電池と古い電池を混ぜないでください。

電子音	露出補正	赤目軽減機能	オートポップアップ	セルフタイマー撮影 連続撮影 多重露出
鳴る	なし	なし	あり	1コマ撮影

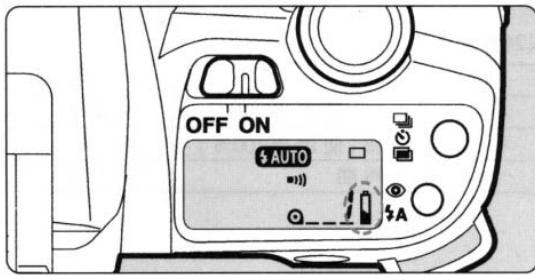
撮影可能フィルム本数およびバルブ時間
[24枚撮りフィルム、20°C]

一般撮影	約120本
ストロボ撮影[使用率50%]	約20本
ストロボ撮影[使用率100%]	約12本
バルブ露出時間	約8時間

撮影可能フィルム本数およびバルブ時間
[24枚撮りフィルム、-10°C]

一般撮影	約30本
ストロボ撮影[使用率50%]	約15本
ストロボ撮影[使用率100%]	約5本
バルブ露出時間	約2時間

- * 新品のリチウム電池[CR2]で、当社試験条件による。
- * 撮影可能フィルム本数は、使用条件によって変わりますのでご注意ください。
- * 低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。
また、撮影できるフィルム本数が少なくなります。
- * 同梱されている電池は、サンプル用の電池のため、上記のフィルム本数を撮影できないことがあります。



電池が消耗した場合

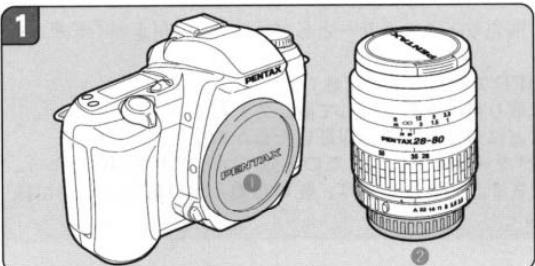
電池が消耗すると、電池消耗警告 が点灯します。早めに電池交換の準備をしてください。

- * 表示パネルの電池消耗警告 が点滅になると、ファインダー内表示は消え、撮影できなくなります。
- * 長期間カメラを使用していない場合、新品電池に交換しても表示パネルに電池消耗警告 が表示されることがあります。電源を入れ、シャッターボタンを半押ししてみてください。 の表示が消えれば、そのままお使いになれます。

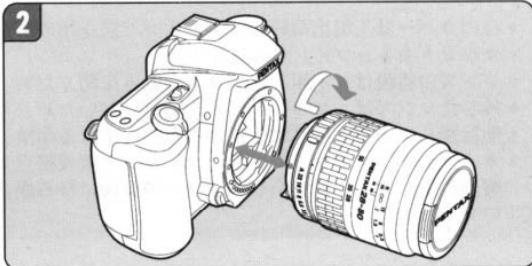
* 電池の交換は 19 ページをご覧ください。

* 電池マーク が出たままでも、シャッターが切れれば露出に問題はありません。

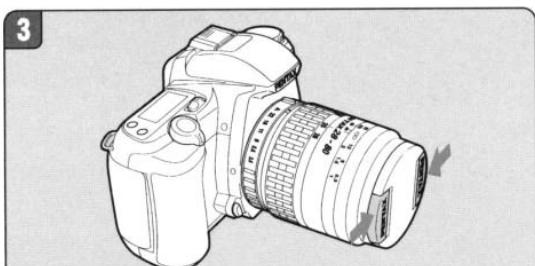
レンズを取り付けます



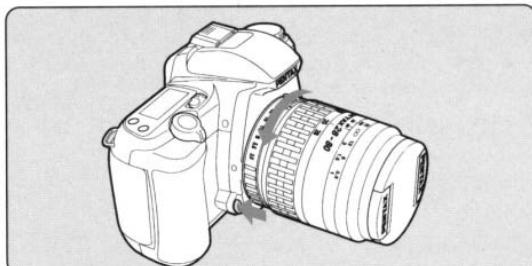
1. 図の①と②のカバーを外します。



2. カメラとレンズの赤点を合わせ、レンズを右に回すと「カチッ」と音がしてロックされます。



3. 図のように矢印部分を内側に押すとレンズキャップが外れます。

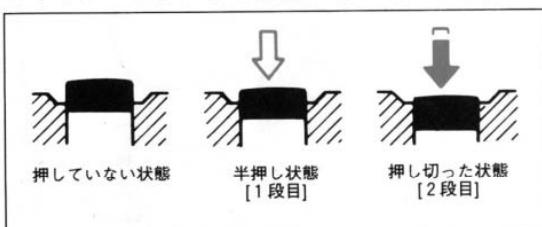


レンズを外すときは、レンズ取り外しボタンを押しながらレンズを左へ回してください。

- * ①のカバーは工場出荷時のキズやホコリ防止用のものです。別売り「アクセサリーとしてロック機構付きの「ボディーマウントキャップK」もあります。
- * レンズの着脱は、不用意なレンズの動きを防ぐため、電源OFFで行ってください。
- * 外したレンズは、マウント周辺を傷付けないため、カメラに取り付く面を上にして置いてください。
- * 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障などにつきましては保証いたしかねます。
- * カメラやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やAFカプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

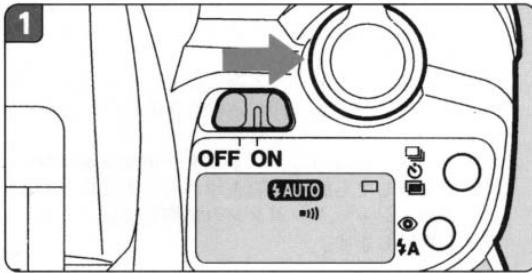
シャッターボタンの操作

シャッターボタンは2段階になっています。

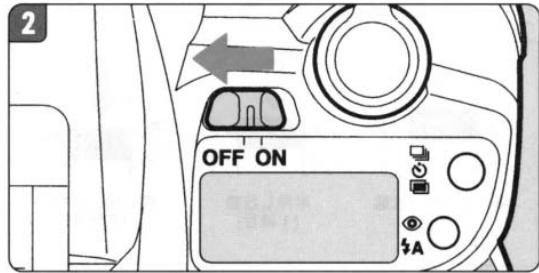


シャッターボタンを半押しすると[1段目まで押し込む]、ファインダー内や表示パネルの表示が表示され、オートフォーカスが働きます。さらにシャッターボタンを押し込む[2段目まで押し込む]と撮影できます。

- * カメラぶれを防ぐため、シャッターボタンはゆっくり押し込んでください。
- * フィルムを入れる前に、実際にシャッターボタンを押してみて、どこまで押し込むと半押しになるのか、感覚をつかんでおいてください。
- * ファインダー内表示は、シャッターボタンを半押し後、指を離しても約10秒間表示されたままになります。なお、シャッターボタンの半押しを続けると、表示は継続します。



1. 電源スイッチを右にスライドすると電源が入ります。[電源ON]



2. 電源スイッチを左にスライドすると電源が切れます。[電源OFF]

* 電源が入らないときは、電池の向きや、電池が消耗していないかを確認してください。

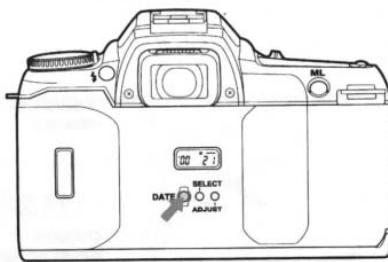
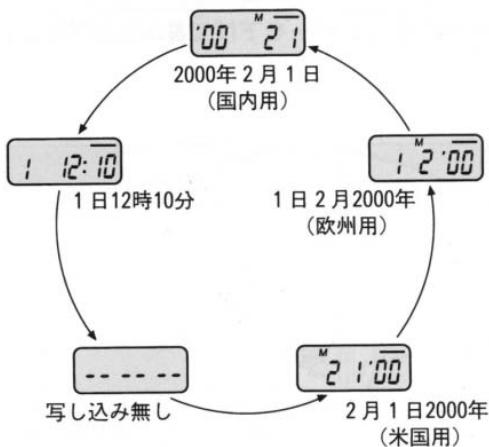
* 使わないときは、必ず電源をOFFにしてください。シャッターボタンが押されると電池が消耗します。

写真に日付や時刻を写し込みます (データバックを使います)

27

DATE ボタンを押して、写し込みたい内容を選びます。表示は下図のように **DATE** ボタンを押すごとに変わり、表示されている日付や時刻が写真に写し込まれます。

* **M** は「月」の位置を表わしています。
* 数字の上の **-** はシャッターを切ると点滅し、日付や時刻が写し込まれたことを知らせます。



* 写し込みをしたくない場合は、表示を **---** にしてください。

* 写真に写し込まれる部分 [画面右下] に白や黄色のものがあると、数字が見えにくくなりますのでご注意ください。

* 日付や時刻の修正は、86 ページをご覧ください。

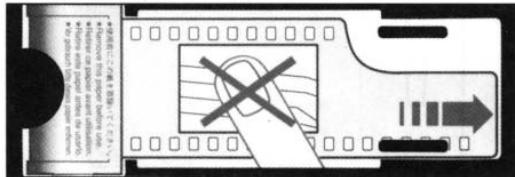
* 写し込みが薄くなったり、カメラ背面の表示が薄くなったり、消えた場合には電池を交換してください。なお、電池の交換は 85 ページをご覧ください。

* 使用上の注意が 88 ページにもありますので、そちらもご覧ください。

* 多重露出では、日付や時刻の写し込みはできません。

フィルムを入れます

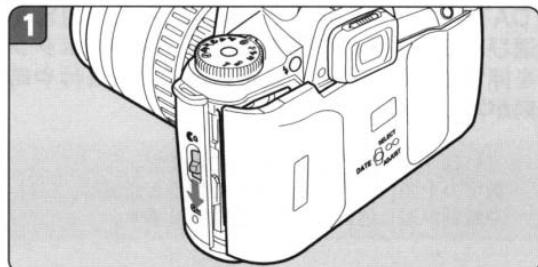
カメラを購入後、初めてフィルムを入れるときには、裏ぶたを開けて写真のような防傷カバーをシャッター幕に触れないように取り外してください。



* カメラの操作に慣れるまでは、カメラにフィルムを入れないで練習されることをお勧めします。

* ほとんどのフィルムが、フィルム感度を自動的にセットできるDXフィルムですが、DX以外のフィルムの場合は、84ページをご覧になり、フィルム感度を設定してからお使いください。

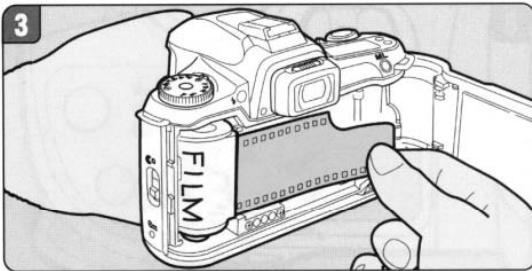
* フィルムを入れるときは、直射日光が当たらぬところで行なってください。



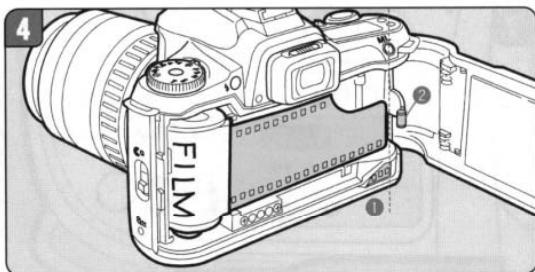
1. 裏ぶた開放レバーを下げるで裏ぶたを開けます。



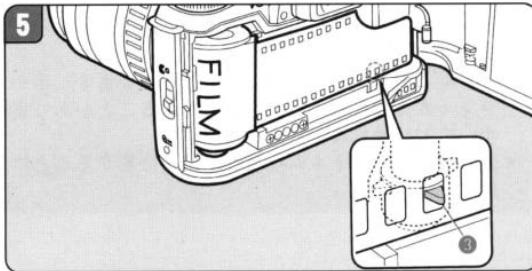
2. レンズをしっかりと持ち、フィルムの凸部を下にして先に入れ、次に上側を入れます。



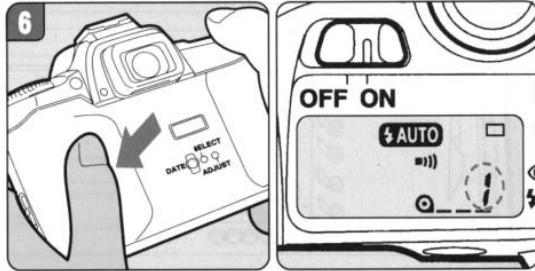
3. シャッター幕に触れないようにフィルムを引き出します。



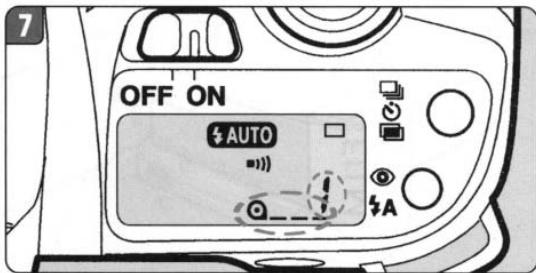
4. フィルム先端をオレンジ色のフィルム先端マーク①の右端に合わせます。フィルム先端は必ず②のローラーの下に入れてください。



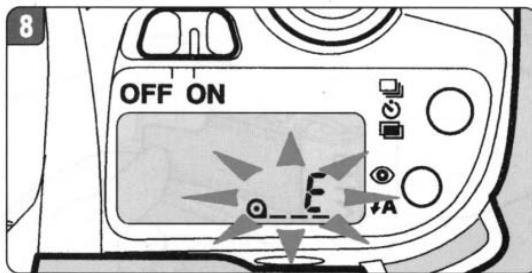
5. フィルムの穴[パーフォレーション]を③の歯[スプロケット]に合わせます。



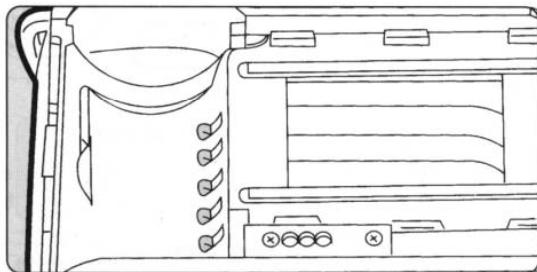
6. 裏ぶたを閉め、電源をONにすると、フィルムが1枚目まで進みます。



7. 表示パネルにフィルム枚数の **|** と **---** がでていることを確認します。



8. フィルムが正しく入っていないと、**E** が点滅します。フィルムを入れ直してください。



DX情報ピンは、フィルム感度などを読み取る接点です。キズやゴミ、汚れを付けないように、注意してください。

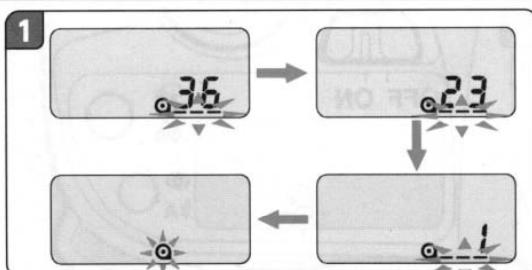
* フィルムを引き出し過ぎた場合は、フィルムをパトローネに戻してたるみを取ります。

* シャッター幕は非常に薄い幕でできています。手やフィルム先端などが当たると破損することがあります。絶対に触れないでください。

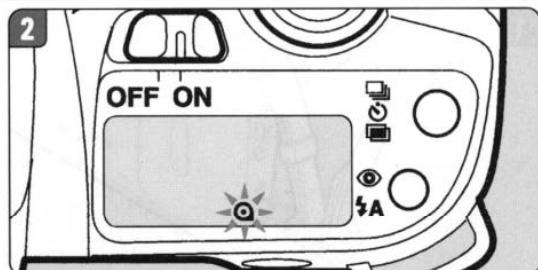
* 表示パネルのフィルム枚数表示は、撮影するごとに1つずつ進みます。

フィルムの巻き戻しについて

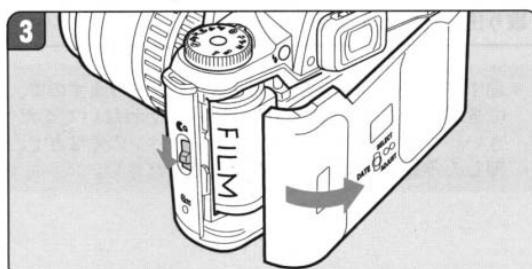
31



1. フィルムが終了すると、自動的に巻き戻しが始まります。**---** の **---** 部分が点滅し、撮影枚数が減っていきます。



2. 巻き戻しが終了すると、表示パネルの **---** が点滅し、撮影枚数の表示が消えます。



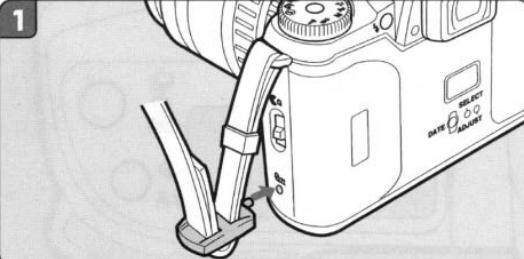
3. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

* 巻き戻し中は裏ぶたを開けないでください。
* フィルムは直射日光が当たらないところで取り出してください。

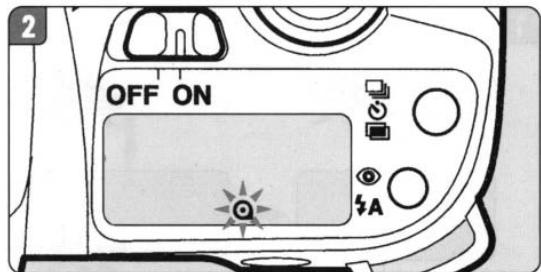
* 規定枚数になっても、まだ撮影が続けられるときは、フィルムが最後まで進んでから巻き戻しが行なわれます

* 巻き戻しは 24 枚撮りフィルムで約 13 秒です。
* フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合があります。大事な写真の場合は、規定枚数を撮り終わった時点で途中巻き戻しを行ない、フィルムを交換してください。

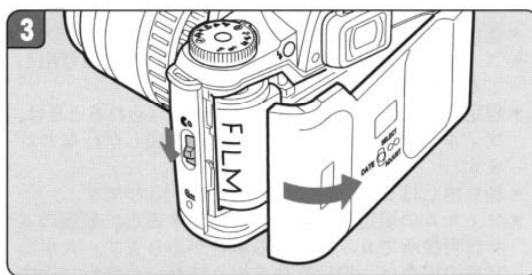
フィルムの途中巻き戻し



1. 電源をONにし、途中巻き戻しボタンをストラップ留め具の突起で押してください。



2. 巻き戻しが終了すると、表示パネルの が点滅し、撮影枚数の表示が消えます。

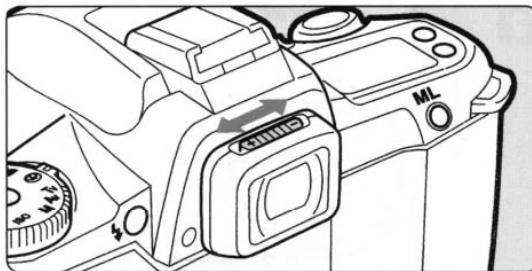


3. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

フィルムの規定枚数まで撮り終わらないうちに途中で取り出したいときに使います。

* 途中巻き戻しボタンを傷付けることがありますので、できるだけストラップ留め具以外は使わないでください。やむを得ない場合は、ボールペンの先などで、押しこみ過ぎに気をつけて行ってください。

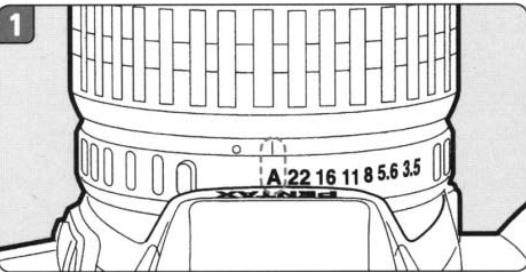
ファインダーの視度を合わせます



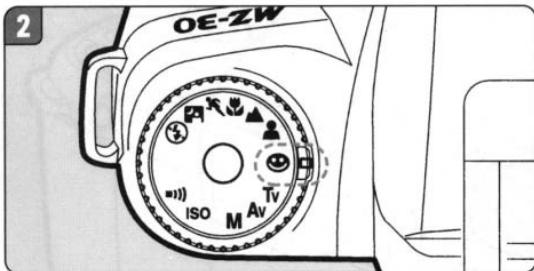
カメラを明るい方へ向け、視度調整レバーを左右に動かし、ファインダー内の がはっきり見える位置にします。

II 基本的な使い方 [撮影]

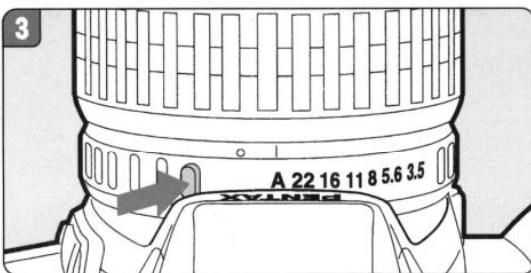
標準モードに合わせます



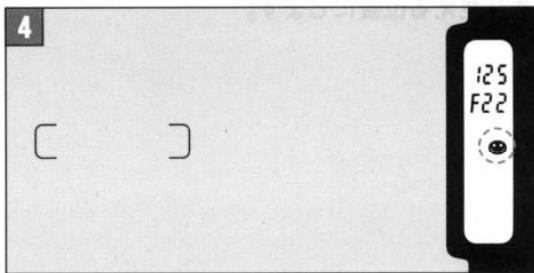
1. レンズの絞りを **A** に合わせます。



2. モードダイヤルを **(スマイルマーク)** に合わせます。



3. 絞りを **A** 位置にする場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。



4. ファインダー内にも **(スマイルマーク)** が表示されます。

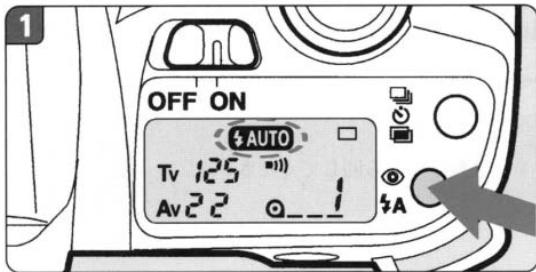
このモードは、最も簡単な露出モードで、カメラが自動的に露出合わせをしますので、シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

* レンズの絞りが **A** 位置以外では、シャッターが切れません。

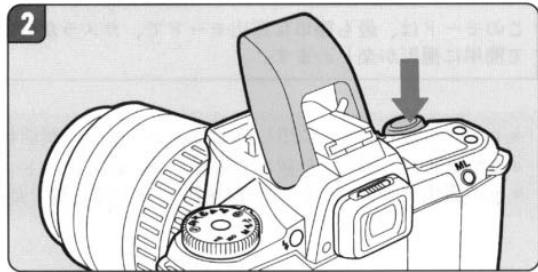
* レンズの絞りを **A** 位置にする場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。

* 他の露出モードについては 64~71 ページをご覧ください。

ストロボオートポップアップにします



1. ストロボモードボタンを押して **AUTO** を表示させます。



2. ストロボが必要なときは、シャッターボタンを半押しすると、自動的にストロボが上がりります。

* 表示パネルに **AUTO** が表示されている場合、ストロボは必要なときだけ発光します。外付けストロボについても同様です。

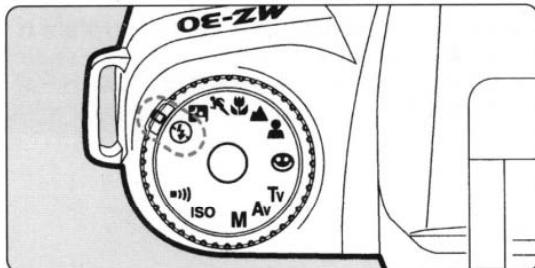
* ストロボは自動的に収納されませんので、必要ないときはストロボ上部を押して収納してください。

* オートポップアップが選択できるのは、露出モードがピクチャーモードの場合だけです。

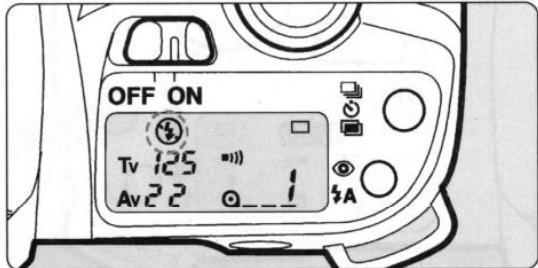
* ストロボモードボタンの機能については45ページをご覧ください。

* ストロボが上がった後に強制発光ボタン **⚡** を押すと、表示パネルの **AUTO** が消え、常にストロボが発光する強制発光モードになります。

ストロボ発光禁止モード **⚡** について



モードダイヤルを **④** に合わせます。



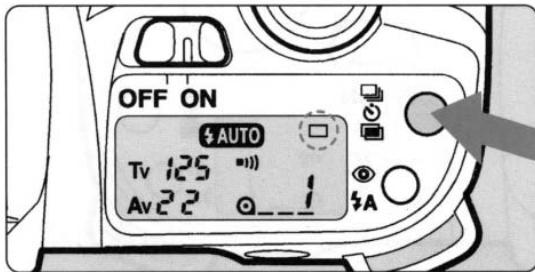
表示パネルに **④** が表示されます。

ストロボを自動で上げたくない場合にご利用ください。暗くてもストロボが自動で上がるはありません。また、ストロボが上がっているときは発光しなくなります。

* ストロボが自動で上がらない他は、標準モードと同じです。

* 外付けストロボも同様に発光しなくなります。

1 コマ撮影にします



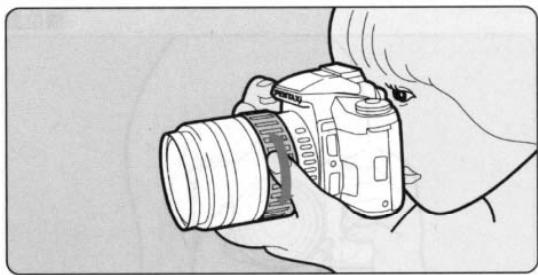
ドライブボタンを押して、□表示を出します。

- * シャッターボタンを押し続けても1度だけ撮影される、最も一般的なモードです。
- * ドライブボタンのその他の機能について51ページをご覧ください。

ズームレンズの使い方



望遠側



ズームリングを右に回すと望遠[テレ]へ、左に回すと広角[ワイド]になります。



広角側

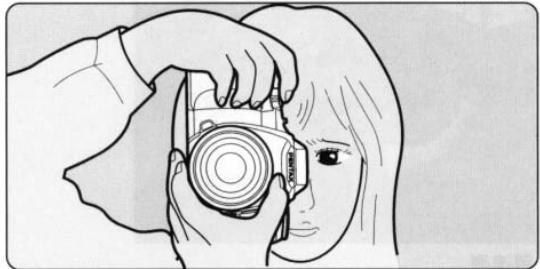
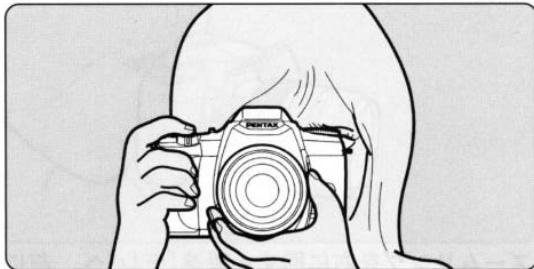
ズームレンズを使えば写したい物を大きくしたり、小さくしたり自由に変えることができます。好みの大きさに合わせて撮影してください。

- * レンズの焦点距離表示の数字を小さくすると、写る範囲が広い広角[ワイド]側に、大きくすると、遠いものを大きく写す望遠[テレ]側になります。
- * このカメラでは、パワーズーム、イメージサイズ指定、ズームクリップ、露光間ズームは使用できません。

カメラの構え方

縦位置

横位置



撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

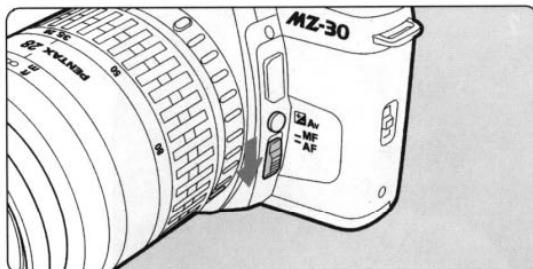
- ・カメラを両手でしっかりと持ってください。
- ・シャッターボタンは指の腹で静かに押します。

* 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させると効果があります。

* 個人差はありますが、一般的には焦点距離の逆数が手持ちの限界シャッター速度とされています。例えば、焦点距離が 50mm では 1/50 秒、100mm では 1/100 秒などです。これ以下のシャッター速度になる場合には、なるべく三脚を使用してください。三脚を使用する場合は、別売りの「ケーブルスイッチF」の利用をお勧めします。

* 望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

オートフォーカスを選びます

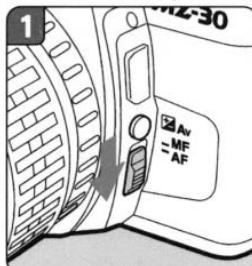


フォーカスマードレバーを **AF** に合わせます。

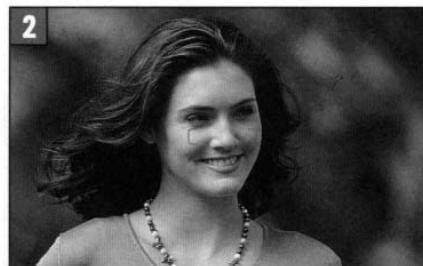
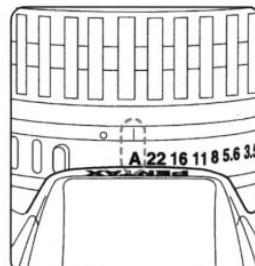
* このカメラでは、オートフォーカスを使わずに、手動でピント合わせをすることもできます。詳しくは、76 ページをご覧ください。

オートフォーカスでは、シャッターボタンを半押しするだけで自動的にピント合わせが行なわれます。

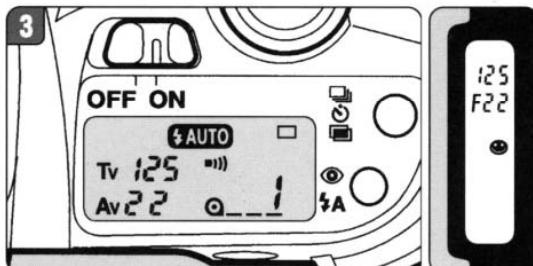
基本的な使い方



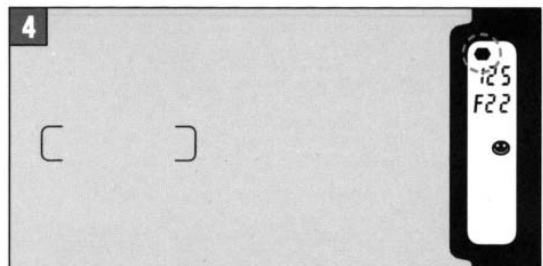
1. フォーカスモードレバーが **AF**、絞りが **A** 位置になってることを確認します。



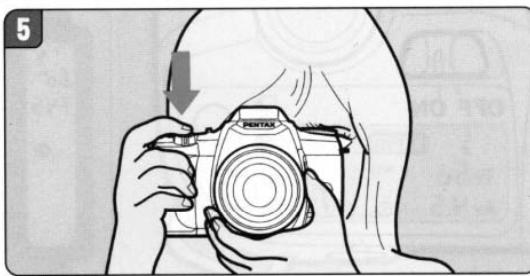
2. シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行なわれます。ピントが合うのは、**□**で囲まれた範囲です。



3. 表示パネルやファインダー内でシャッター速度・絞り値やピクチャーモードの種類を確認してください。



4. ピントが合うと、**□**が光って、「ピピッ」と電子音が鳴ります。



5. さらにシャッターボタンを押し込むと撮影できます。

* このカメラは、ワイドAFエリアですから、写したいものが画面中央になくても、AFフレームで囲まれた範囲であれば、ピントを合わせることができます。

* ピントが合ったときの電子音は消すことができます。74 ページをご覧ください。

* 撮影すると自動的にフィルムが巻かれ、枚数表示が1つ進みます。

* ピントが合ったままシャッターは切れません。

* **□**が光っている間は、ピントがその位置で固定されます。別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離して再度押し直してください。

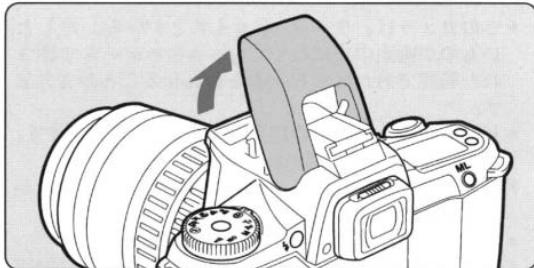
□が点滅を続けるときは、以下の理由でピント合わせができないときです。

- ①撮影距離が近すぎる
もう少し離れて撮影してください。
- ②オートフォーカスの苦手な物の場合。78 ページをご覧ください。

動体予測

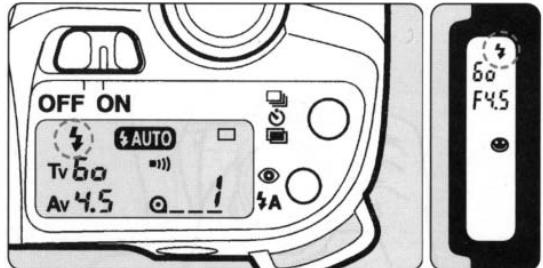
シャッターボタン半押しでピント合わせをしているときに、カメラが写す物を動体と判断すると、自動的に動体予測に切り替わります。この場合には、レンズが連続的に駆動し、写す物にピントを合わせ続けます。

* 写す物の動きが速すぎると、動体予測が働かず、シャッターが切れないことがあります。



内蔵ストロボについて

ストロボが必要なときはシャッターボタンを半押しすると自動的に上がります。(オートポップアップ)



充電が終わると、表示パネルとファインダー内に が表示されます。

* 内蔵ストロボは、暗い場合だけでなく、逆光の場合にも上がります。

* ストロボは自動的には下がりません。収納するときは、上部を押して収納してください。

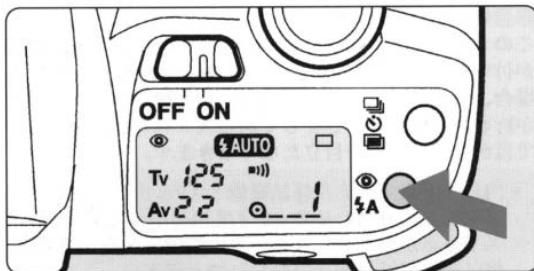
* 内蔵ストロボの撮影可能距離より写すものが遠い場合や近い場合も、ストロボが上がりますので十分ご注意ください。撮影可能距離については、47ページをご覧ください。

* ストロボ撮影に不適切なレンズ使用の場合も、ストロボが上がりますので十分ご注意ください。不適切レンズについては、82ページをご覧ください。

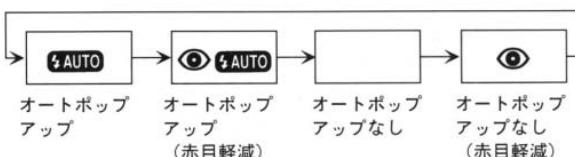
* レンズフードは、ストロボの光を遮りますので使わないでください。

* ストロボを連続して使うと、電池が多少温くなることがあります、異常ではありません。

* ストロボ充電中はシャッターは切れません。



ストロボモードボタンを押すと下記の順番でストロボの発光方式を選ぶことができます。



* オートポップアップあり [表示] が選択できるのは、露出モードがピクチャーモードの場合だけです。[56ページをご覧ください。]

* ストロボが上がっている状態で、オートポップアップなし [表示なし] が選択されると、強制発光になり、常にストロボが発光します。外付けストロボでも同様です。

* 表示パネルに [表示] が表示されているときだけストロボは自動的に上がります。また、ストロボが上がった後でも、必要なときだけストロボが発光します。(ストロボ自動発光)

* メモリーロック中はオートポップアップは働きません。

* 外付けストロボでも同様に、 [表示] 中であれば、ストロボ自動発光になります。従って、明るい場合にはストロボが発光しませんのでご注意ください。

* 外付けストロボを取り付けていると内蔵ストロボは自動的に上がりません。

* 外付けストロボを取り付けた状態で、ストロボの電源を切っているか充電中の場合、表示パネルに [表示] が表示されていても内蔵ストロボは自動的に上がりません。

AF補助光について

暗い所で、シャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に発光することがあります。これは、オートフォーカスを作動しやすくするためです。

- * AF330FTZやAF500FTZなど、外付けストロボのAFスポットビーム補助光を利用する場合は、内蔵ストロボの補助光は作動しません。
- * 露出モードが動体モード  になっている場合、フォーカスマードレバーが  になっている場合、およびモードダイヤルで  が選択されている場合は、AF補助光は発光しません。
- * AF500FTZのスレーブ機能を使用する場合、AF補助光が作動すると、外付けストロボが発光してしまいますので、スレーブ使用時はフォーカスマードレバーを  にしてお使いください。
- * 電池が消耗するとAF補助光が発光しないことがあります。
- * AF補助光が有効な距離は、条件にもよりますが、およそ1~5mです。

赤目軽減機能について

このカメラには、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。表示パネルに  が表示されている場合、シャッターが切れる直前に小光量のストロボ発光が行われ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので目が赤く写るのを目立たなくできます。

- * 内蔵ストロボの赤目軽減機能とAF500FTZのスレーブ機能を組み合わせると、1度目の小発光で外付けストロボが発光してしまいますので、スレーブ使用時は赤目軽減機能は使わないでください。
- * 外付けストロボのみを使用しているときも、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が働きます。詳しくは89ページをご覧ください。

赤目現象とは

一般に「赤目現象」といわれ、暗い中で人物のストロボ撮影を行なったときに、目が赤く写る現象です。これは、ストロボの光が目の網膜に反射するために起こる現象と言われています。赤目を完全に防ぐことはできませんが、できるだけ周りを明るくして撮影するか、ズームレンズを使用している場合には広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用すると軽減することができます。外付けのストロボをご使用のときは、ストロボをできるだけカメラから離すと効果があります。

ピクチャーモードのストロボ撮影可能距離

ストロボ撮影できる距離は、表のように、ご使用になるレンズの開放絞り値により変化しますのでご注意ください。開放絞り値は、レンズに「1:1.4」のように表示されています。[F1.4の場合]

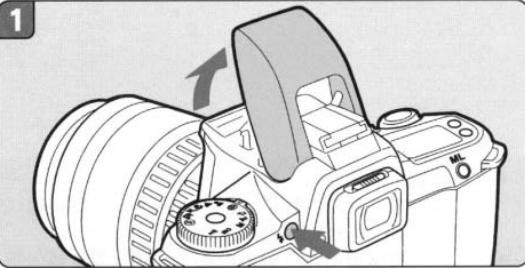
使用レンズの開放絞り値	撮影距離範囲
F1.4	約0.8~3.9m[5.6m]
F2	約0.8~3.3m[4.8m]
F2.8	約0.7~2.8m[4.0m]
F3.5、F4.7	約0.7~2.4m[4.0m]
F5.6	約0.7~2.0m[4.0m]

[ISO100のとき、カッコ内はISO400のとき]

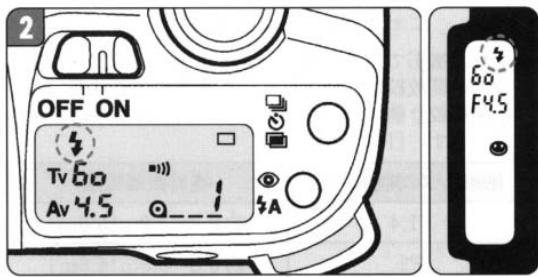
* この撮影距離範囲は、露出モードがピクチャーモードの場合です。これ以外の露出モードの撮影距離については81ページをご覧ください。

* ストロボで撮影できる最短距離は、開放絞り値の暗いレンズを使用しても、約0.7mより近距離にはなりません。0.7mより近距離で撮影すると露出が正しく制御されません。また、ケラレなどが発生しますのでご注意ください。

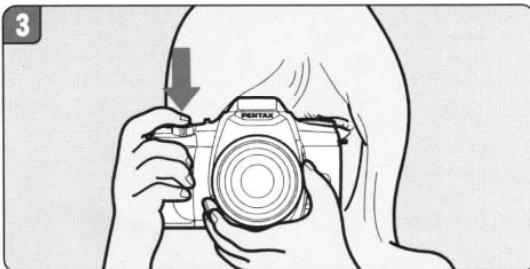
手動でストロボを上げます



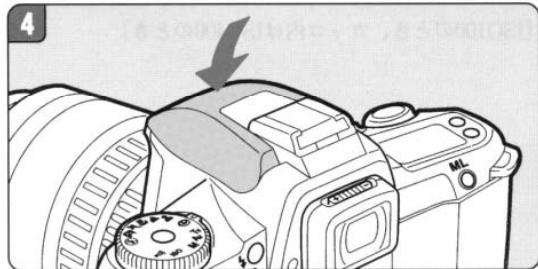
1. 強制発光ボタンを押して、ストロボを上げます。表示パネルの **AUTO** が消えます。



2. 充電が終わると、表示パネルとファインダー内に **闪光** が表示されます。



3. シャッターボタンを押し込んでストロボ撮影をします。

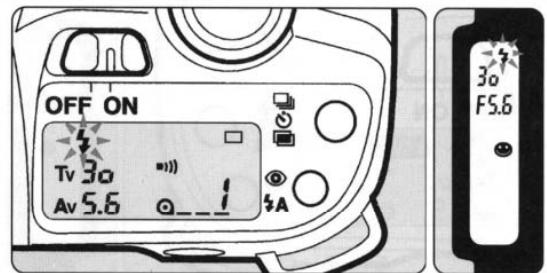


4. 内蔵ストロボは図の部分を押して収納してください。

ストロボお勧めマークについて

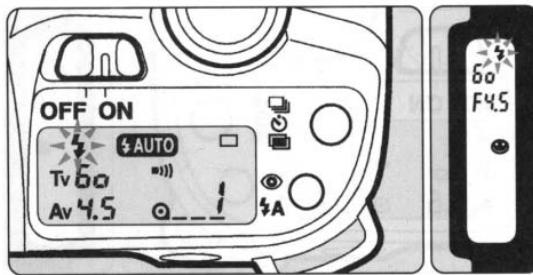
49

- *明るさに関係なくストロボは常に発光します。
- *モードダイヤルが **②** 位置では、強制発光ボタンを押してもストロボは上がりません。
- *ストロボ充電中はシャッターは切れません。
- *ストロボを連続して使うと、電池が多少温くなることがあります、異常ではありません。
- *外付ストロボを取り付けた状態で、強制発光ボタンは押さないでください。外付けストロボに接触します。同時に使用する場合の接続方法については、89ページをご覧ください。
- *レンズフードは、ストロボの光を遮りますので使わないでください。
- *ストロボが上がっている状態で、強制発光ボタン **闪光** を押すと、常にストロボが光る強制発光になります。



暗い場合や逆光のときは、表示パネルとファインダー内の **闪光** が点滅し、ストロボの使用をお勧めします。

- *露出モードがシャッター優先自動露出・マニュアル露出では逆光の場合にのみ **闪光** が点滅します。



ストロボ撮影に不適切なレンズを使用すると、充電完了時表示パネルとファインダー内の が点滅します。

- * 内蔵ストロボの適・不適レンズについては、82 ページをご覧ください。
- * 警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円形のケラレが出ますのでご注意ください。
- * F・FA レンズ以外では警告表示は出ません。
- * 警告が出る条件でも、オートポップアップ機能は働きますのでご注意ください。

III 応用的な使い方

ドライブモードを切り替えます

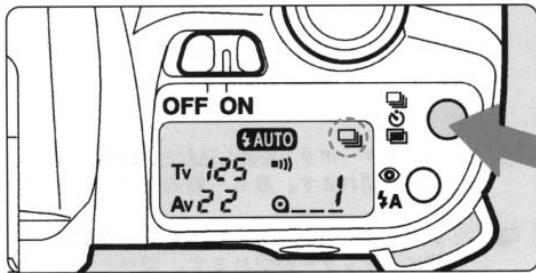
51

このカメラには、図のように 4 種類のドライブモードがあります。

ドライブモードの種類

- 1 コマ撮影
- 連続撮影
- セルフタイマー撮影
- 多重露出

- : シャッター ボタンを押し込むと、1 回だけシャッターが切れます。最も一般的なドライブモードです。
- : シャッター ボタンを押し込んでいる間、連続的にシャッターが切れます。52 ページをご覧ください。
- : セルフタイマー撮影です。52 ページをご覧ください。
- : 多重露出撮影です。55 ページをご覧ください。



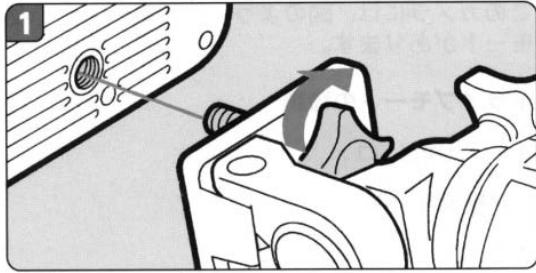
連続撮影
ドライブボタンを押して を表示させます。

シャッター ボタンを押し込んでいる間、連続的にシャッターが切れます。

* 連続撮影では、シャッターが1回切れる毎にその都度ピント合わせを行ないます。

* 内蔵ストロボは、充電が完了してからシャッターが切れます。

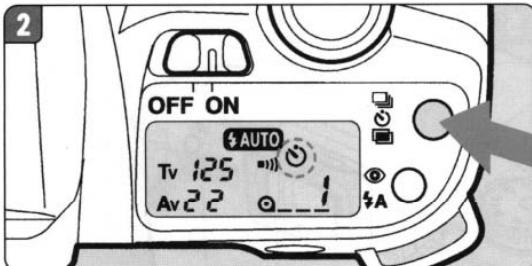
* 解除は、同様の操作で 表示を消してください。



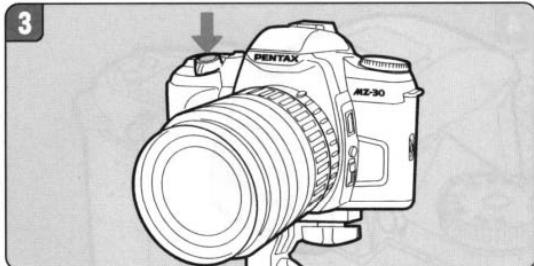
セルフタイマー撮影
1. カメラの三脚ネジ穴に三脚を固定します。

セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。

シャッター ボタンを押し込むと、約12秒後にシャッターが切れます。

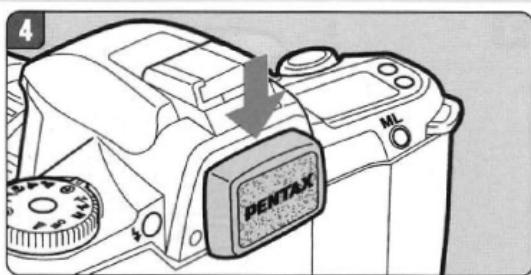


2. ドライブボタンを押して を表示させます。

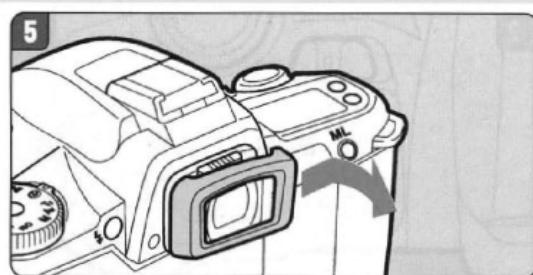


3. シャッター ボタンを押し込むとセルフタイマーが始動します。

* セルフタイマーの作動中は電子音で知らせます。



4. ファインダーから入る光が、自動露出[マニュアル露出以外]に影響を与える場合がありますので、付属のファインダーキャップをご利用ください。

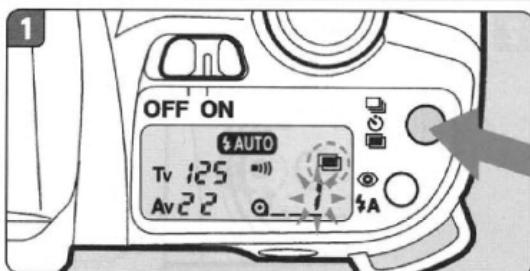


5. 「ファインダーキャップ」などのアクセサリーの取り付けは、アイカップ F_k の片側を横に引っ張り、外してから行ないます。

* シャッターが切れる約2秒前から、電子音は速い断続音「ピッピッピッ」になります。

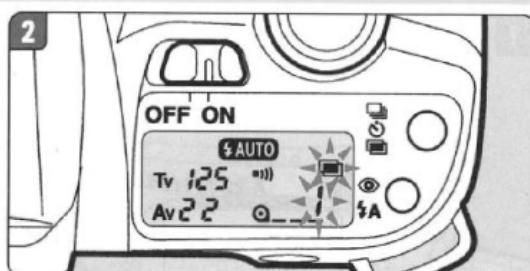
* セルフタイマーの解除は、ドライブボタンを押して 表示を消してください。

* セルフタイマーを始動後に中止したいときは、ドライブボタンを押すか、電源をOFFにしてください。

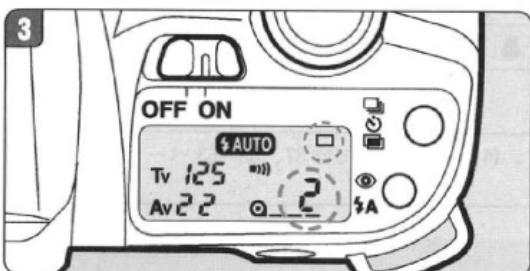


多重露出撮影

1. ドライブボタンを押して を表示させます。フィルム枚数が点滅します。



2. 1回目の撮影をします。 とフィルム枚数が点滅します。



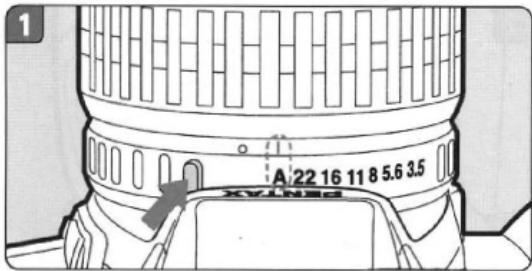
3. 2回目の撮影をするとフィルムが巻き上がります。 が消えて が表示され、フィルム枚数が点灯に変わります。

同一のフィルム画面上に重ねて撮影することができます。

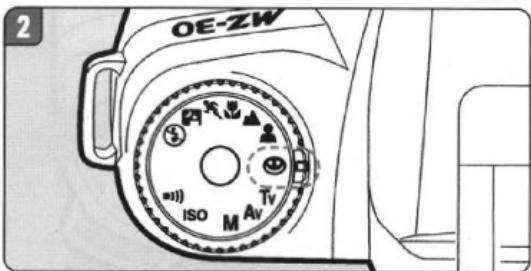
* 3枚以上の多重露出をする場合は、「手順3.」の撮影をする前に、ドライブボタンをもう一度押して、 を点灯にしてから「手順2.」に戻ります。

* 多重露出では、日付や時刻の写しへできません。

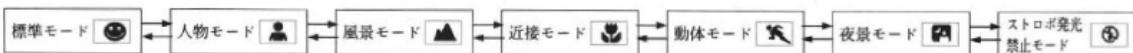
ピクチャーモードの使い方



1. 絞りオートロックボタンを押しながらレンズの絞りを **A** 位置にします。

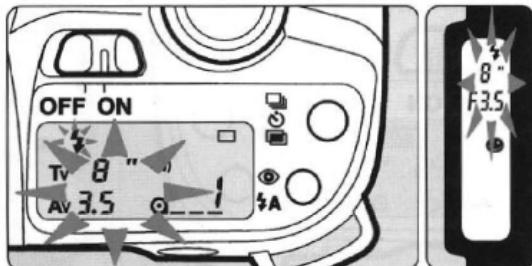


2. モードダイヤルを好みの位置に合わせます。



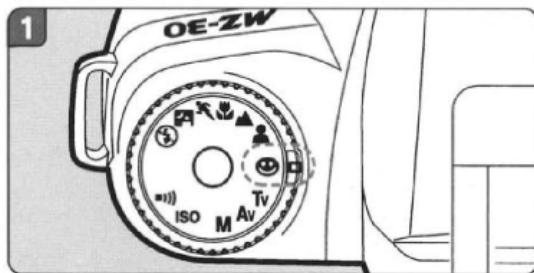
ピクチャーモードには、上記のように7つのモードがあります。各モードについては37、58~63ページをご覧ください。

* レンズの絞りが **A** 位置以外では、シャッターが切れません。



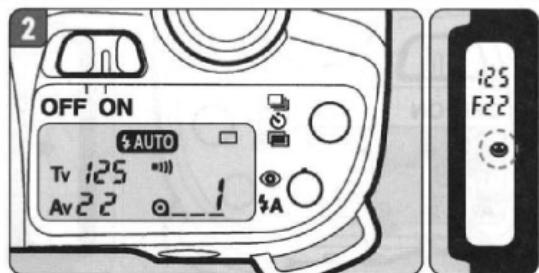
露出警告

写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度と絞り値表示が点滅します。明るすぎるときは、NDフィルターをお使いいただぐか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。



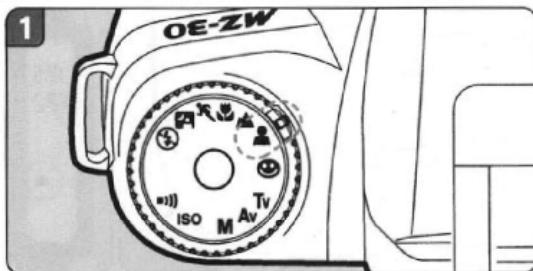
標準モード

1. モードダイヤルを に合わせます。



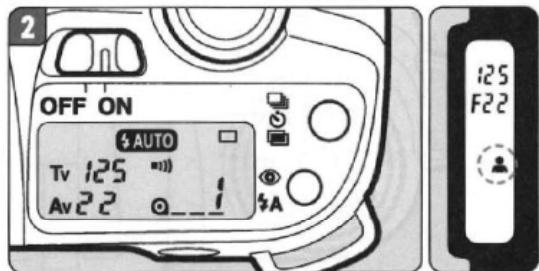
2. 表示パネルやファインダー内でシャッター速度・絞り値やピクチャーモードの種類を確認してください。

一般的な撮影をするときにこのモードを使うと便利です。



人物モード

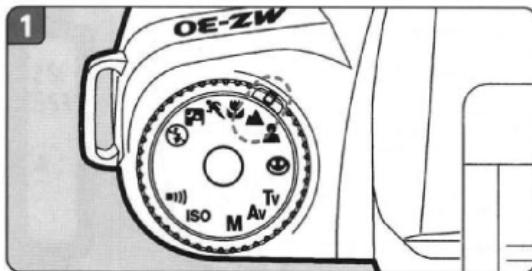
1. モードダイヤルを に合わせます。



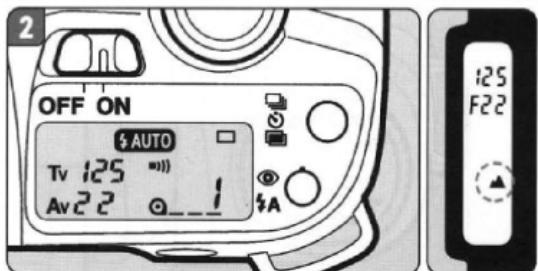
2. 表示パネルやファインダー内でシャッター速度・絞り値やピクチャーモードの種類を確認してください。

人物撮影をするときにこのモードを使うと便利です。

このモードで人物撮影をすると、望遠系のレンズではバックをぼかすことができます。一方、広角系のレンズでは、集合写真に便利なように比較的広い範囲にピントが合うようになります。



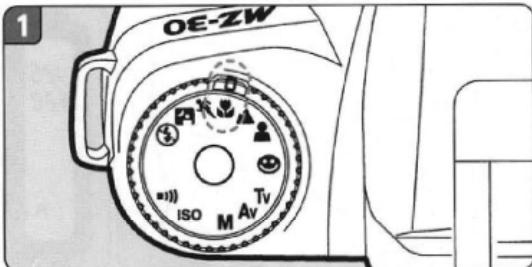
風景モード
1. モードダイヤルを に合わせます。



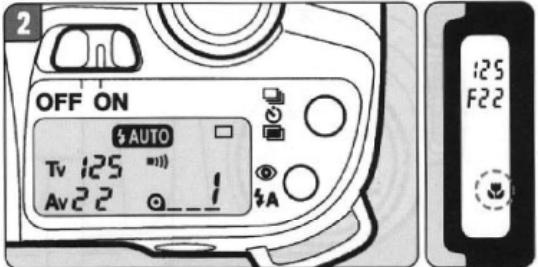
2. 表示パネルやファインダー内でシャッター速度・絞り値やピクチャーモードの種類を確認してください。

風景撮影をするときにこのモードを使うと便利です。

このモードで風景撮影をすると、近くから遠くまで風景全体にピントの合った写真が撮れます。



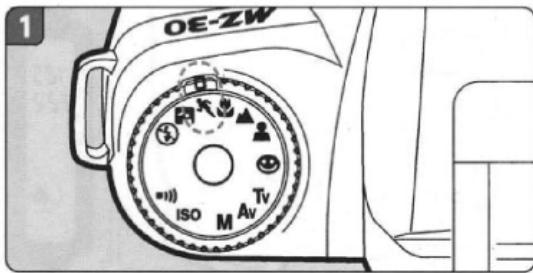
近接モード
1. モードダイヤルを に合わせます。



2. 表示パネルやファインダー内でシャッター速度・絞り値やピクチャーモードの種類を確認してください。

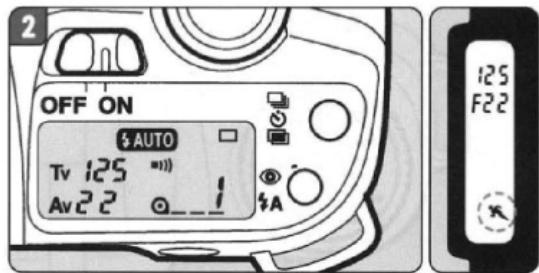
花などを近くで撮影するときに使うと便利です。

このモードで撮影を行うと、ピントの合う範囲が広くなっていますので、シャープな写真が撮れます。



動体モード

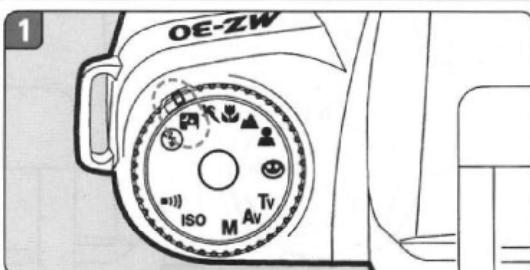
- モードダイヤルを に合わせます。



2. 表示パネルやファインダー内でシャッター速度・絞り値やピクチャーモードの種類を確認してください。

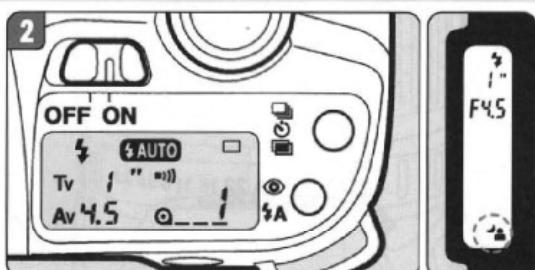
動きの速い物を写すときに使うと便利です。

このモードで撮影すると、動きの速いものでもぶれずに動きを止めてはっきりとした写真を撮ることができます。



夜景モード

- モードダイヤルを に合わせます。



2. 表示パネルやファインダー内でシャッター速度・絞り値やピクチャーモードの種類を確認してください。

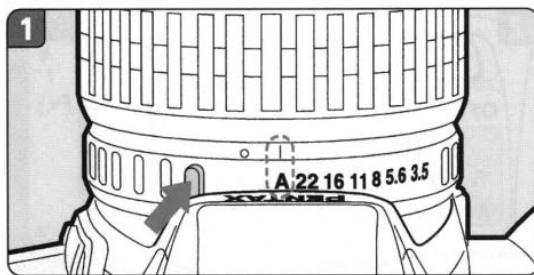
ストロボを利用して夜景を生かした人物撮影をするときに使うと便利です。

ストロボ撮影で、写すものが暗い場合、シャッター速度が1秒まで下がりますので、背景を生かしたストロボ撮影ができます。

* 夜景モード撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、三脚などに固定してください。また、写される人が動いてしまっても、写真はぶれてしましますのでご注意ください。

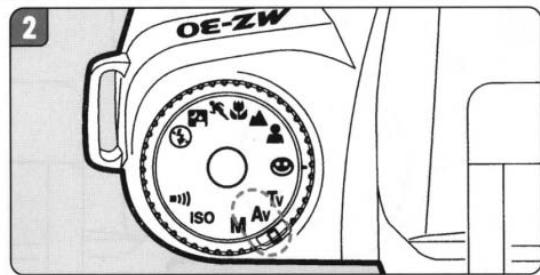
* ストロボを使用しない場合の制御は、標準モードの場合と同様です。

いろいろな露出モードを選びます

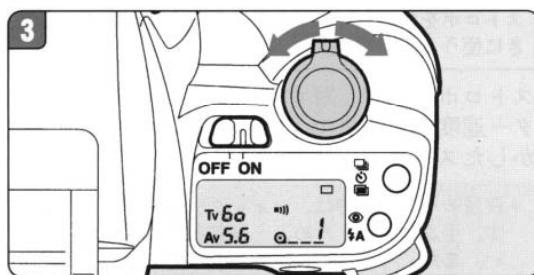


絞り優先自動露出の使い方

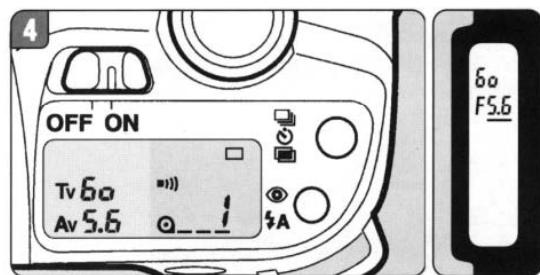
1. 絞りオートロックボタンを押しながら絞りを **A** 位置に合わせます。



2. モードダイヤルを **Av** に合わせます。



3. セレクトレバーで好みの絞りを選びます。

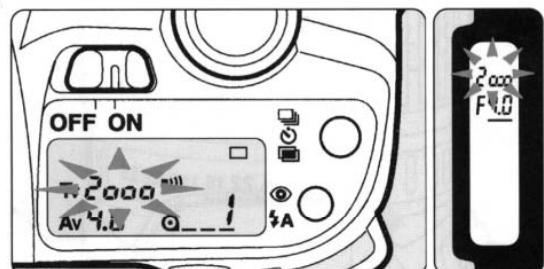


4. 表示パネルやファインダー内で絞り値とシャッター速度を確認してください。

明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わります。ピントの合う範囲を広くしたい風景写真や、背景をぼかしたい人物の撮影などに適しています。絞りの効果については、97ページをご覧ください。

* ファインダー内の絞り値の下には、現在絞りが変更可能であることを示すアンダーバー **—** が表示されます。

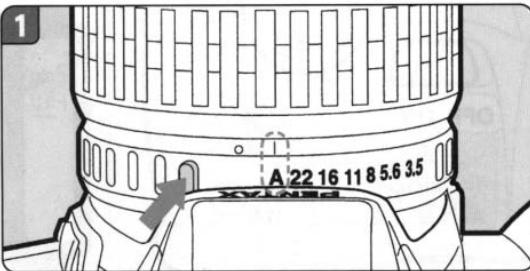
* 表示パネルの絞り値は、電源がONであれば常に表示されます。



露出警告

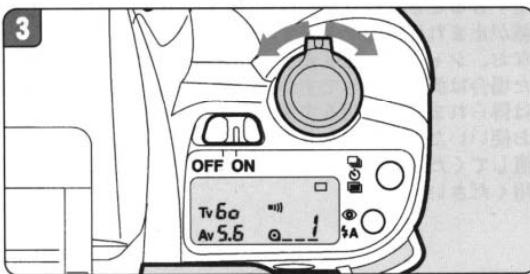
写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度表示が点滅します。明るすぎるとときは絞りを小絞り側[数字の大きい方]に、暗すぎるとときは絞りを開放側[数字の小さい方]にして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外ですから、絞りを変えても適正露出は得られません。明るすぎるとときは、ND フィルターをお使いいただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。



シャッター優先自動露出の使い方

1. 絞りオートロックボタンを押しながら絞りを **A** 位置に合わせます。

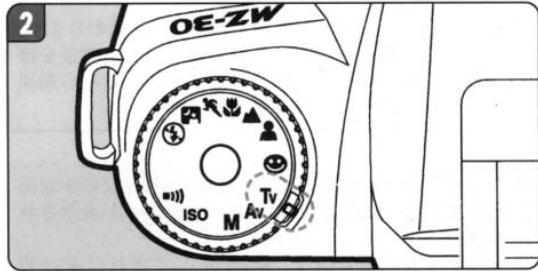


3. セレクトレバーで好みのシャッター速度を選びます。

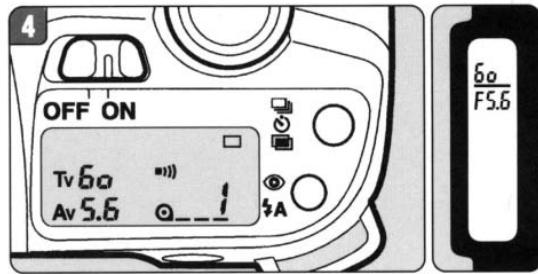
明るさに応じて絞りが自動的に変わります。速い速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を出すのに適しています。シャッター速度の効果については、96 ページをご覧ください。

* ファインダー内のシャッター速度の下には、現在シャッター速度が変更可能であることを示すアンダーバー **—** が表示されます。

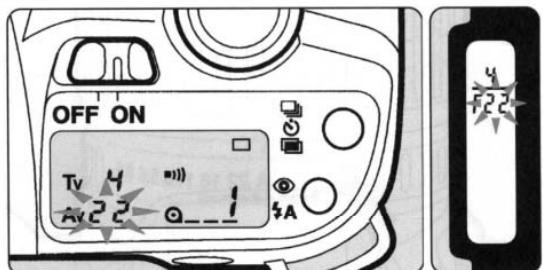
* 表示パネルのシャッター速度は、電源がONであれば常に表示されます。



2. モードダイヤルを **Tv** に合わせます。



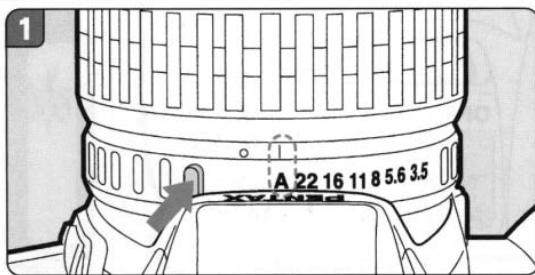
4. 表示パネルやファインダー内で絞り値とシャッター速度を確認してください。



露出警告

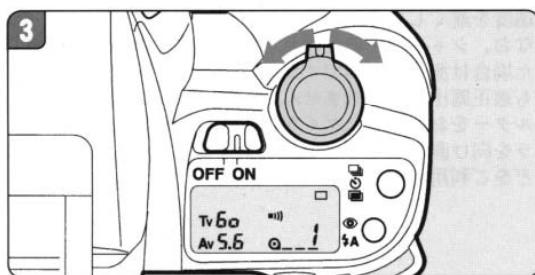
写したい物が明るすぎたり暗すぎるとときは、表示パネルとファインダーの絞り値表示が点滅します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるとときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外ですから、シャッター速度を変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、ND フィルターをお使いいただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるとときは、ストロボなどをご利用ください。

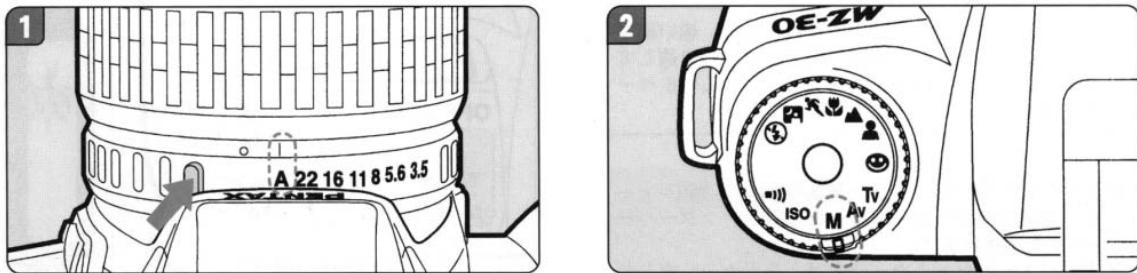


マニュアル露出の使い方

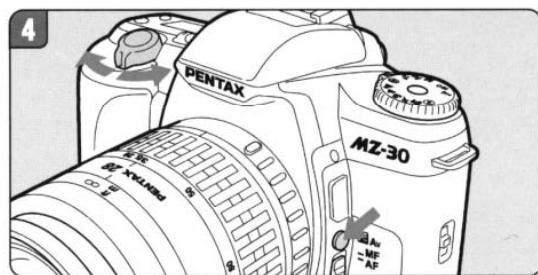
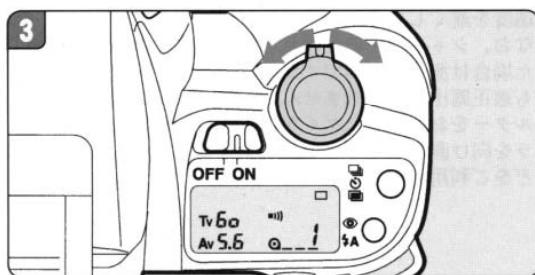
- 絞りオートロックボタンを押しながら絞りを **A** 位置に合わせます。



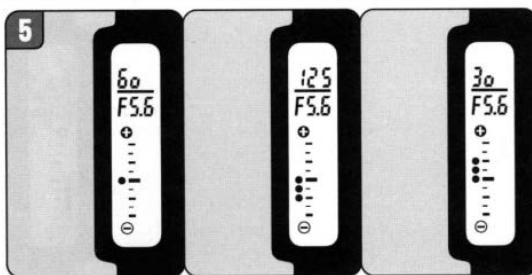
- セレクトレバーで好みのシャッター速度を選びます。



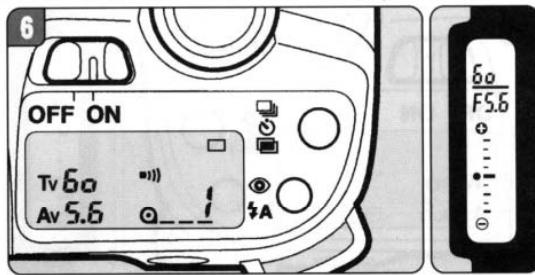
- モードダイヤルを **M** に合わせます。



- 絞り値は、側面ボタンを押しながらセレクトレバーで選んでください。



- ファインダー内のバーグラフの黒丸が中心にあれば適正、**-** 側に並んでいるときは露出不足、**+** 側は露出オーバーです。黒丸1つが $1/2$ 段階($1/2EV$)に相当します。



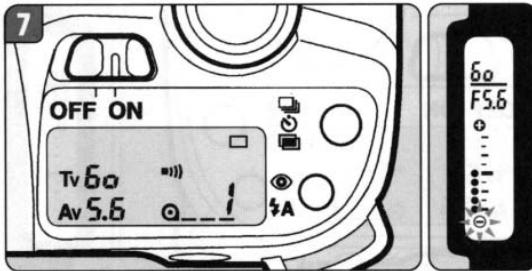
- 表示パネルやファインダー内で絞り値とシャッター速度を確認してください。

常に同じシャッター速度と絞りの組み合わせで撮影をする場合や、意図的に露出オーバー[明るい写真]や露出アンダー[暗い写真]にするときに使います。

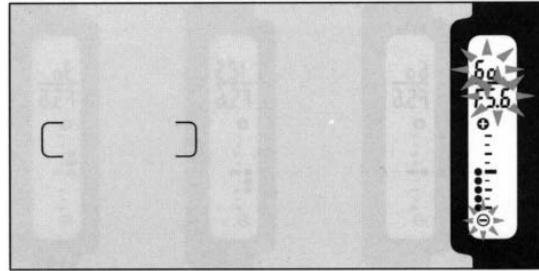
* ファインダー内のシャッター速度の下には、現在シャッター速度が変更可能であることを示すアンダーバー **-** が、側面ボタンを押すと絞り値の下に絞りが変更可能であることを示すアンダーバー **-** が表示されます。

* 表示パネルのシャッター速度と絞り値は、電源がONであれば常に表示されます。

* マニュアル露出では、メモリーロックや露出補正はできません。

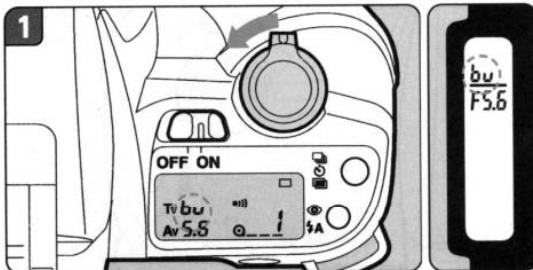


7. 露出が適正から2段階[2EV]以上離れた場合は、**[+]**あるいは**[-]**が点滅します。



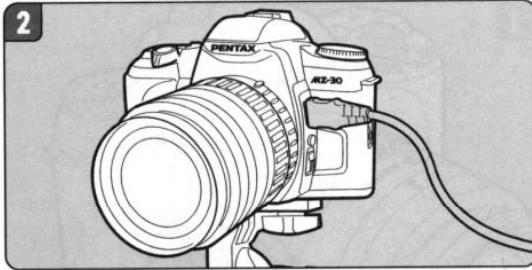
露出警告

写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度表示と絞り値表示の両方と**[+]**あるいは**[-]**が点滅し、測光範囲外を知らせます。シャッター速度や絞りを変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、NDフィルターをお使いいただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。



バルブの使い方

1. マニュアル露出のときに、セレクトレバーでシャッター速度を低速側に移動させ、表示パネルとファインダー内に**bu**を表示させます。

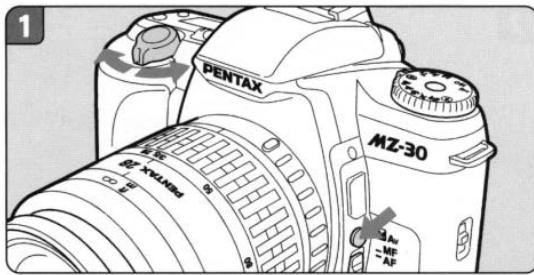


2. バルブで撮影するときは、ぶれ防止のためしっかりした三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチF」をご利用ください。

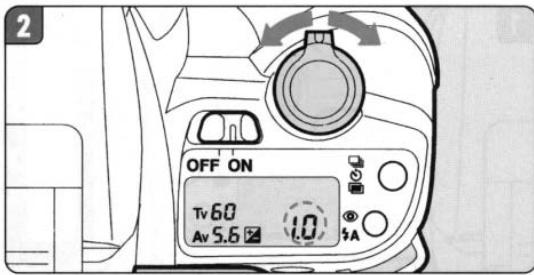
花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押し込んでいる間、シャッターが開き続けます。

* 新品のリチウム電池[常温]で、約8時間の長時間露出ができます。

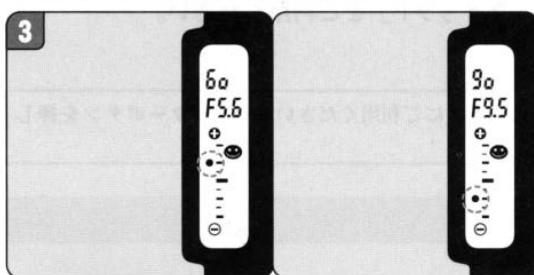
露出補正について



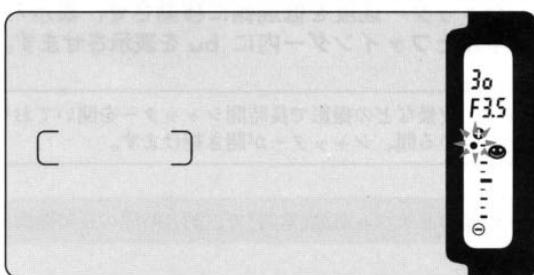
1. 側面ボタンを押しながらセレクトレバーを回し、好みの補正值を選びます。



2. 補正值は、表示パネルで確認しながら設定してください。補正中は **[■]** が表示されます。



3. 補正值は、ファインダー内のバーグラフで確認できます。黒丸が **[+]** 側にあれば露出オーバー、**[−]** 側は露出不足の方向になります。黒丸1つが $1/2$ 段階($1/2EV$)に相当します。



- 2段階を越えた設定をした場合は、ファインダー内のバーグラフの黒丸が点滅します。

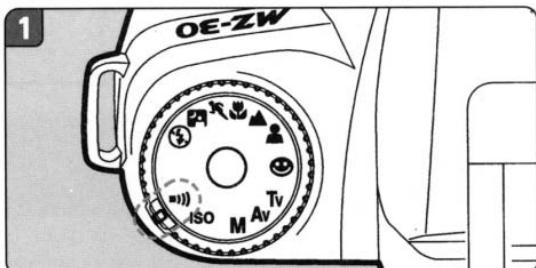
意図的に露出オーバー[明るい写真]や露出アンダー[暗い写真]にしたいときなどに使います。
逆光時、人物が暗くなってしまう場合にご利用ください。

* 露出補正是マニュアル露出および、バルブでは使えません。

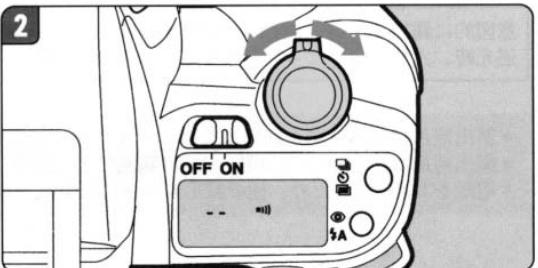
* 露出補正是、 $-3 \sim +3$ 段階[EV]の範囲で $1/2$ 段階[EV]ごとに行なえます。

* 電源をOFFにしたり、他の露出モードにしても、露出補正是解除されません。

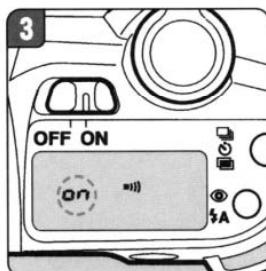
電子音の切り替えをします



1. モードダイヤルを **[M]** に合わせます。



2. セレクトレバーを回すと電子音の切り替えができます。

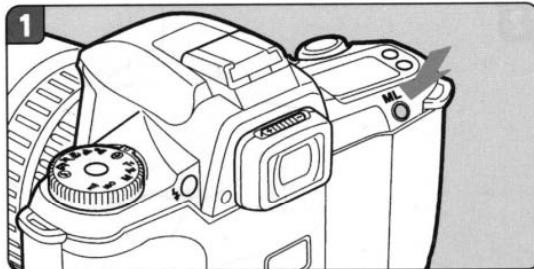


3. **[ON]** を表示させると「鳴る」に、**[--]** を表示させると「鳴らない」になります。

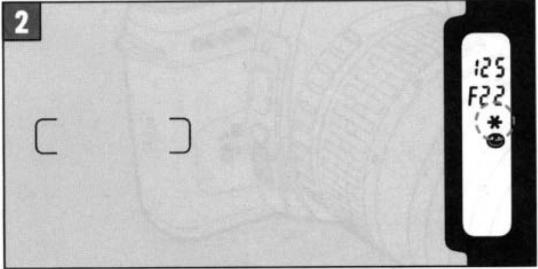
ピントが合ったときやメモリーロック時の電子音の有無を変更することができます。

* モードダイヤルが **[M]** 位置では、シャッターが切れません。

メモリーロックを使います



1. メモリーロックボタン **[ML]** を押すと、その時点の露出(明るさ)を記憶します。もう一度押すと解除できます。



2. メモリーロック中は、ファインダー内に ***** が表示されます。

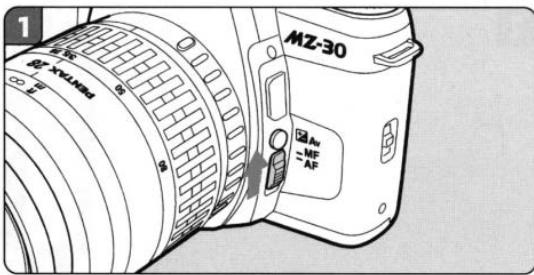
メモリーロックは、撮影前の露出を記憶させる機能です。写したいものが小さく、適正な露出を得るのが難しいときや逆光撮影のときなどにお使いください。

* メモリーロックボタン **[ML]** から指を離しても、20秒間は露出が記憶されています。メモリーロックボタンを押し続けたり、シャッターボタンを半押している間は露出が記憶され続けます。

* メモリーロックボタン **[ML]** を押すと、電子音が鳴ります。電子音は、消すことができます。74ページをご覧ください。

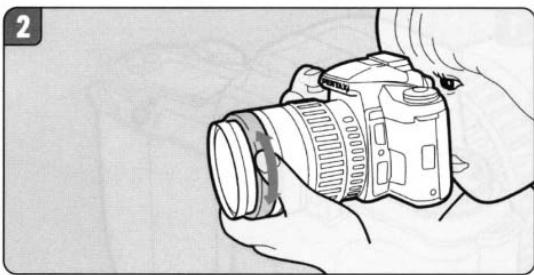
* メモリーロック中はオートポップアップは働きません。**[AUTO]** 表示も消えます。

手動によるピント合わせ



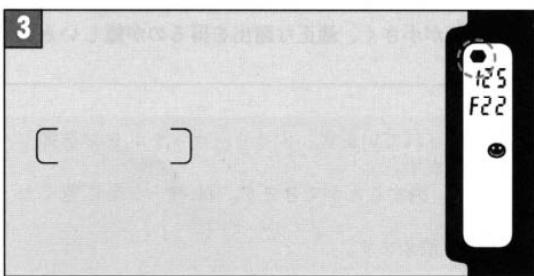
合焦マーク を利用する場合

1. フォーカスマードレバーを **MF** に合わせます。



2. ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しした状態で、レンズの距離リングを回してください。

* ピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク の点灯と同時に「ピピッ」と電子音が鳴りますが、電子音を消すこともできます。74 ページをご覧ください。



3. ピントが合うとファインダー内の合焦マーク が光ります。

合焦マーク が利用できない場合

以下の理由で、ファインダー内の合焦マーク が使えない場合は、78 ページの方法でファインダーのマット面を利用した手動ピント合わせをしてください。

- a) 「オートフォーカスの苦手な物」で合焦マーク が点滅しているとき。78 ページをご覧ください。
- b) 開放F値がF5.6 付近より暗いAレンズを使用したとき。(注)

(注) リアコンバーターなど、絞り値が変わるアクセサリーでは、その合成絞り値が F5.6 より暗くなる場合も同様です。なお、この絞り値の 5.6 はあくまでも目安ですから、念のため合成絞り値がこの付近になる場合は、次ページの方(マット面の利用)でピント合わせをしてください。

マット面を利用する場合

1. フォーカスマードレバーを **[MF]** に合わせます。
2. ファインダーを覗きながら、ファインダー内の像が最もはっきり見えるようにレンズの距離リングを回してください。

スナップインフォーカス撮影について

前もってピントを合わせておいた場所に写したい物が飛び込んで来たときに、自動撮影することをスナップインフォーカス撮影といいます。

1. レンズはオートフォーカス用でないAレンズを使用します。
2. フォーカスマードレバーを **[AF]** に合わせます。
3. 写したいものが通りそうな所と同じ距離に、前もって距離リングを合わせておきます。
4. ケーブルスイッチFを使って、シャッターボタンを押し込んだ状態にしておきます。
5. 写したいものがピントを合わせた位置に来ると、自動的に撮影されます。

オートフォーカスの苦手な物

オートフォーカス機構は、万能ではありません。写す物が下記のような場合には、ピント合わせができないことがあります。ファインダー内の合焦マーク を利用した手動ピント合わせも同様です。

そんなときは、フォーカスマードレバーを **[MF]** にして、従来の一眼レフカメラと同様にファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。

a) AFフレーム の内側が白い壁などの極端にコントラスト[明暗差]の低い物だけの場合。

b) AFフレーム に光を反射しにくい物がある場合。

c) 非常に速い速度で移動している物。

d) 反射の強い光、強い逆光[周辺が特に明るい物]。

e) AFフレーム の中に繰り返しの縦線が存在する場合。

f) 遠近のものがAFフレーム の中に同時に存在する場合。

e)、f)については、合焦マーク が出ていても、ピントの合わないことがありますのでご注意ください。

アクセサリーの注意

以下の条件では、オートフォーカスやファインダー内の合焦マーク を利用した手動ピント合わせができません。78ページの手順に従って、ファインダー内のマット面で手動ピント合わせをしてください。

- 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」・「ステレオアダプター」などを使った場合。

偏光フィルターについて

オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般的の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用するときには円偏光フィルターをご利用ください。

また、露出の精度も低下しますので、円偏光フィルターの使用をお勧めします。

ピクチャーモードを使うとき

- 周囲の明るさに合わせて、シャッター速度と絞りが自動的に変化します。
- シャッター速度は、1/100秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、オートフォーカス用でないAレンズ使用時および、動体モード \blacksquare では1/100秒固定になります。夜景モード \blacksquare では低速限界は1秒になります。

シャッター優先自動露出を使うとき

- 動きのある物を写すときに、ぶれの効果を変えてストロボ撮影ができます。
- 1/100秒以下のシャッター速度を自由に選んでストロボ撮影ができます。
- 周囲の明るさに合わせて自動的に絞り値が変化します。

絞り優先自動露出を使うとき

- ピントの合う範囲[被写界深度]を変えて撮影したいときや、より遠くの物を写したいときなどに、絞りを自由に変えてストロボ撮影ができます。
- 周囲の明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化します。
- シャッター速度は1/100秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、オートフォーカス用でないAレンズ使用時および、動体モードでは1/100秒固定になります。

マニュアル露出を使うとき

- 1/100秒以下のシャッター速度と絞りを自由に組み合わせて、ストロボ撮影ができますので、背景の明るさを自由に変えてのストロボ撮影などができます。

使用絞りから撮影距離を計算します

$$\begin{array}{l} \text{遠距離側の目安} \quad \text{ガイドナンバー} \div \text{使用絞り} \\ \text{近距離側の目安} \quad \text{遠距離側目安} \div 5 \text{[注]} \end{array}$$

ただし、0.7m以下の距離では使えません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出オーバーの原因となります。

注：割り算で使用した数値の「5」は、このカメラの内蔵ストロボを単独で使用した場合にのみ適用される数値です。

なお、ガイドナンバーは使用するフィルム感度[ISO]により下の表のようになります。

ISO25 → 5.5	ISO200 → 15.6
ISO50 → 7.8	ISO400 → 22
ISO100 → 11	

ここでISO100のフィルムを絞りF2.8で使うときの例をあげます。

$$\text{ガイドナンバー}(11) \div \text{F2.8} = 3.9\text{m}$$

$$3.9 \div 5 = 0.8\text{m}$$

従って、約0.8mから3.9mの範囲でストロボが使えます。

撮影距離から使用絞りを計算します

$$\text{ガイドナンバー} \div \text{撮影距離} = \text{使用絞り}$$

計算で出た数字が「3」のようにレンズの絞り値がない値になったときは、一般的に数字の小さい方[2.8]になります。

F・FAレンズの内蔵ストロボ適合表[○は使用可、×のレンズではケラレが発生します]

いずれもフードなしでの評価です。

レンズ名	適合
Fズーム 17~28mmF3.5~4.5	×
FAズーム 20~35mmF4	△ *1
FAズーム 28~70mmF4	○
FA*ズーム 28~70mmF2.8	×
FAズーム 28~80mmF3.5~5.6	△ *2
FAズーム 28~105mmF4~5.6(IF)	△ *3
FAズーム 28~200mmF3.8~5.6	△ *4
F・FAズーム 35~80mmF4~5.6	○
FAズーム 70~200mmF4~5.6	○
FA*ズーム 80~200mmF2.8	△ *5
FAズーム 80~320mmF4.5~5.6	○
F・FAズーム 80~200mmF4.7~5.6	○
Fズーム 100~300mmF4.5~5.6	○
FAズーム 100~300mmF4.5~5.6	○
FA*ズーム 250~600mmF5.6	×

*1 : 焦点距離が28mm未満ではケラレが発生する場合があります。

*2 : 焦点距離が28~35mmで撮影距離が3m以下と、35mmで撮影距離が1m以下ではケラレが発生する場合があります。

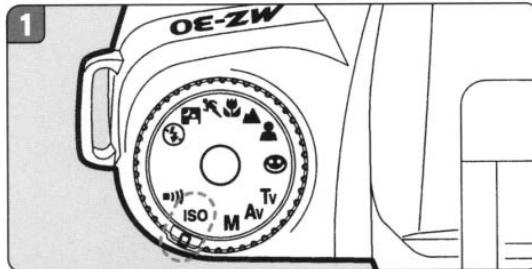
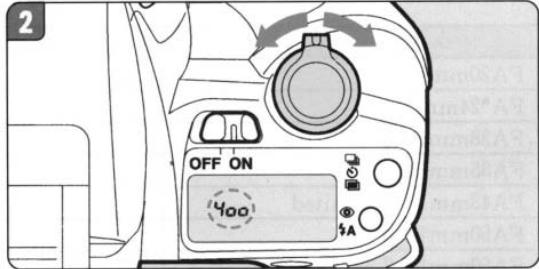
*3 : 焦点距離が40mm以下ではケラレが発生する場合があります。

*4 : 焦点距離が70mm以下ではケラレが発生する場合があります。

*5 : 焦点距離が80~90mmではケラレが発生する場合があります。

レンズ名	適合
FA20mmF2.8	×
FA*24mmF2	×
FA28mmF2.8	○
FA35mmF2	○
FA43mmF1.9 Limited	○
FA50mmF1.4	○
FA50mmF1.7	○
FA77mmF1.8 Limited	○
FA*85mmF1.4	○
FA135mmF2.8	○
FA*200mmF2.8	○
FA*300mmF2.8	×
FA*300mmF4.5	○
FA*400mmF5.6	○
FA*600mmF4	×
FAマクロ50mmF2.8	○
FAマクロ100mmF2.8	○
FAマクロ100mmF3.5	○

DXでないフィルム使用時の感度設定方法

1. モードダイヤルを **ISO** に合わせます。

2. セレクトレバーでフィルム感度を変えます。

応用的な使い方

このカメラでは、フィルムをカメラに入れたときに、自動的にフィルム感度が設定されますが、一部のDXでないフィルムを使う場合は、下記の方法でフィルム感度を設定してください。

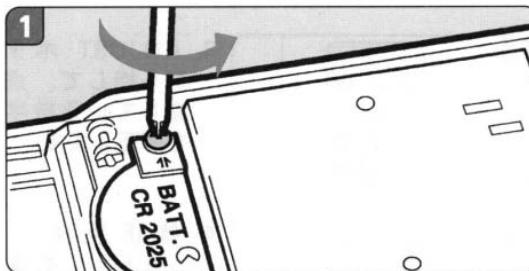
* 数字を小さい方へ変化させたいときは、セレクトレバーを左に、大きい方へ変化させたいときは、右に回してください。

* モードダイヤルが **ISO** 位置では、シャッターが切れません。

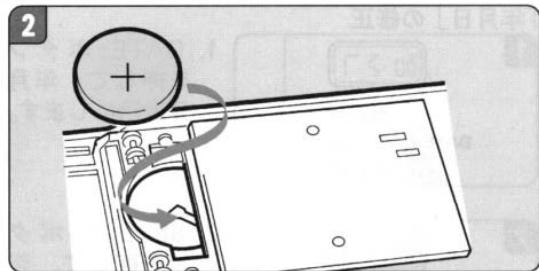
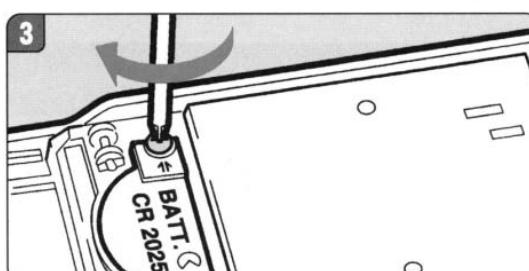
* DXの感度と違うフィルム感度を設定したときには、表示パネルに **ISO** 表示が出ます。

日付や時刻の写し込みが薄くなったときの電池交換

85



1. 裏ぶた内側のネジをドライバーで回して電池ぶたを外します。

2. 古い電池を取り出し、新しい電池 **CR2025** を **+** 側を上にして入れます。

3. 電池ぶたを元の位置に戻し、ネジをドライバーで締めます。

* 電池の寿命は約3年です。写真に写る日付や時刻が薄くなってきたり、写らなくなったりした場合には電池を交換してください。

* 表示が出ないときは電池の+が正しく入っているかを確認してください。

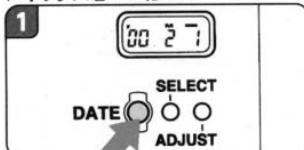
* 電池交換後は、日付や時刻の修正を行なってください。日付や時刻の修正については86ページをご覧ください。

* 電池交換は、最寄りのサービスセンターでも承ります。(有料)

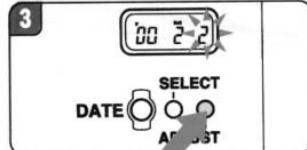
応用的な使い方

日付や時刻の修正

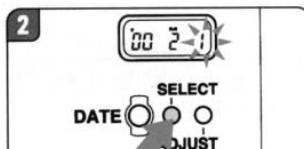
「年月日」の修正



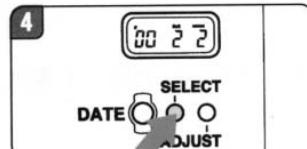
1. DATE ボタンを押して、年月日表示にします。



3. ADJUST ボタンを押して、点滅している数字を修正します。



2. SELECT ボタンを押して、年月日のうち修正したい数字を点滅させます。

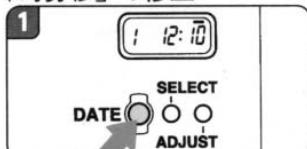


4. 修正後は、SELECT ボタンを押して、点滅を止めます。

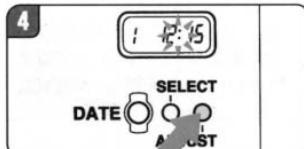
* 点滅の順番は、「年」→「月」→「日」→「年」です。

* ADJUST ボタンは、一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2~3秒後からは早送りされます。

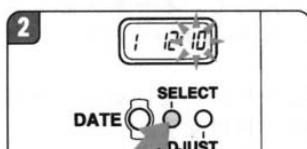
「時分秒」の修正



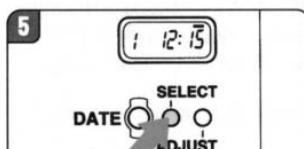
1. DATE ボタンを押して、日時分表示にします。



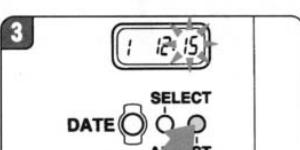
4. 「：」点滅のときには ADJUST ボタンを押すと0秒にセットされます。



2. SELECT ボタンを押し、時分「：」のうち修正したい数字を点滅させます。



5. 修正後は、SELECT ボタンを押して、点滅を止めます。



3. ADJUST ボタンを押して、点滅している数字を修正します。

* 点滅の順番は、「時」→「分」→「：」→「時」です。

* ADJUST ボタンは、一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2~3秒後からは早送りされます。

使用上の注意

- * [SELECT] ボタンや [ADJUST] ボタンを傷付けることがありますので、できるだけ、ストラップ留め具以外は使わないでください。やむを得ない場合は、ボールペンの先などで、押し込み過ぎに気をつけて行ってください。
- * 使用可能温度は約 50°C~0°Cですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- * 使用できるフィルム感度は ISO25~1600 までです。感度はカメラにフィルムを入れると自動的にセットされます。
- * 高感度フィルム [ISO 1000 以上] を使ったときは、写し込まれる文字がじむことがあります。
- * ISO 50 以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- * 修正途中[点滅表示中]は、シャッターを切っても日付や時刻は写し込まれません。



この写真の数字はハメ込み合成です。

外付けストロボの使い方

カメラの内蔵ストロボでは光量が不足するときは、外付けストロボを利用してください。[結婚披露宴やパーティーなどで便利です]

TTLオートで使います

AF280T、AF400Tでは、ファインダー内のオートチェックができませんので、オートチェックスイッチをOFFにしてからお使いください。

1. カメラのホットシューリードに付いているカバーを取り外し、ストロボを取り付けます。
2. ストロボの電源を入れます。
3. 発光モードを TTLオートにします。
4. ストロボの充電完了を確認し、撮影します。

* ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の  も点灯します。

* 撮影できる距離など詳しい内容については、外付けストロボの説明書をご覧ください。

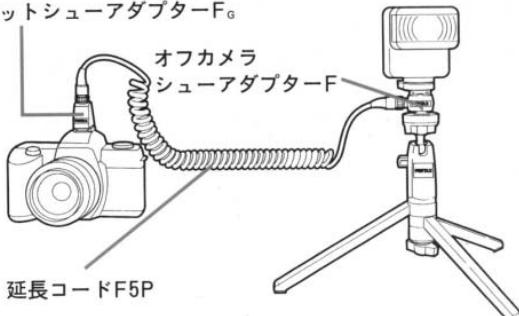
* 表示パネルに  が表示中であれば、ストロボ自動発光になります。従って、明るい場合にはストロボが発光しませんのでご注意ください。

* 外付ストロボを取り付けた状態で、強制発光ボタンは押さないでください。外付ストロボに接触します。同時に使用する場合は、次ページの方法で接続してください。

内蔵ストロボと外付けストロボの同時使用方法

カメラのホットシューリードに別売りのホットシューリードアダプターF_oを、外付けストロボの下に別売りのオフカメラリードアダプターFを付け、延長コードF5Pで接続します。オフカメラリードアダプターFの下には三脚取り付け用のねじがありますので、三脚に固定することができます。ただし、AF400Tは4PシンクロコードBが内蔵ストロボに当たってしまいますので、同時に使用することはできません。

ホットシューリードアダプターF_o



赤目軽減機能について

内蔵ストロボ同様、外付けストロボでも赤目軽減機能がお使いいただけます。ストロボの種類によってご使用いただけない場合や使用条件がありますので、91ページをご覧ください。外付けストロボでの赤目軽減機能は、ストロボを TTLオートにした場合のみ可能です。外光オートでは赤目軽減は解除してください。

後幕シンクロについて

内蔵ストロボとペンタックス専用の外付けストロボを組み合わせて同時に使用した場合、外付けストロボが後幕シンクロに設定されていれば、内蔵ストロボも後幕シンクロになります。撮影時は、各ストロボの充電の完了を確認してからシャッターを切ってください。

ストロボの多灯撮影

2個以上の外付けストロボを同時に使用する場合は、91ページのストロボ機能一覧表の同じタイプどうしを組み合わせるか、TYPE B と TYPE C あるいは TYPE D と TYPE E の組み合わせでお使いください。内蔵ストロボは、どのタイプとでも組み合わせ可能です。

光量比制御シンクロ撮影

外付けストロボ[AF330FTZまたはAF500FTZ]どうしを組み合わせるか、外付けストロボと内蔵ストロボと組み合わせることで、2つのストロボの光量の違いを利用した増灯撮影[光量比制御シンクロ撮影]ができます。

1. 89ページの方法で、外付けストロボをカメラから離して接続します。
2. AF330FTZまたはAF500FTZのシンクロモードを光量比制御モードにします。
3. 外付けストロボと内蔵ストロボのストロボの充電完了を確認してから撮影してください。

*光量の比率は、外付けストロボどうしの場合、光量比制御に設定しているストロボ2に対して、それ以外のストロボ1、外付けストロボと内蔵ストロボの場合は、内蔵ストロボが1に対して外付けストロボは2になります。

*ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となりますので、使用しないでください。

*光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度の上限は1/60秒になります。

*他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。

*スタジオ用の大型ストロボでは、極性が逆になっているものがあり、その場合ストロボが発光しません。詳しくは、ストロボメーカーにご相談ください。また、後幕によるケラレを防ぐため、その場合同調速度より一段低いシャッター速度での使用をお勧めします。

ストロボ機能一覧

カ メ ラ の 機 能	TYPE A	TYPE B	TYPE C	TYPE D	TYPE E
赤目軽減機能が使える。	○	○	×	○注1	×
自動発光が働く。	○	○	○	○	○
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる。	○	○	○	○	○
ピクチャーモード、シャッター優先自動露出では絞りが自動セットされる。	○	○	○	○注2	×注2
ファインダー内でオートチェックができる。	×	○	○	×	×
TTLオートストロボ撮影ができる。	○	○	○	○(AF200SAは不可)	×
低速シンクロができる。	○	○	○	○	○
AF(補助光)スポットビームが使える。	○	○	○	×	×
後幕シンクロ撮影ができる。注3	○注4	○	○	×	×
光量比制御モードで撮影できる。注3	×	○	×	×	×

TYPE A : 内蔵ストロボ

TYPE B : AF500FTZ、AF330FTZ

TYPE C : AF400FTZ、AF240FT

TYPE D : AF400T、AF280T、AF200T、AF080C、AF140C、AF200SA

TYPE E : AF200S、AF160、AF140

注1 : AF280T、AF400Tで、オートチェックOFF、TTLオートにした場合のみ可能。

注2 : TYPE D[AF200SAを除く]のストロボで、MS[マニュアルシンクロ]、M[マニュアル]を使うときはTYPE Eのストロボを使うときは、絞り優先自動露出、マニュアルおよびバルブで撮影してください。それ以外の露出モードでは、絞りが変化しましまりますので使えません。

注3 : シャッター速度は1/60秒以下になります。

注4 : TYPE BまたはCストロボと組み合わせて後幕シンクロ可能。



ストロボなし



ストロボ使用

昼間の明るいときでも、帽子などで人物の顔が陰になってしまふような場合に、内蔵ストロボを利用すると陰の取れたきれいな写真が撮れます。

日中シンクロのやり方は、一般のストロボ撮影と同じですから、そのままシャッターボタンを押すだけで簡単にできます。

1. 強制発光ボタン を押してください。
2. ストロボの充電完了を確認してください。
3. 撮影します。

* 背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあります。

* モードダイヤルが 位置ではストロボは光りません。

* 外付けストロボで日中シンクロを行う場合、ストロボモードボタン を押して、表示パネルの 表示を消してから撮影してください。 表示が出たままで撮影するとストロボが発光しないことがあります。

低速シンクロについて

93

夕景などを背景に人物撮影をするとき、低速シンクロを利用すると人物も背景もきれいに写せます。低速シンクロは、内蔵ストロボでも外付けストロボでも同様にご利用いただけます。

夜景モードの場合

1. モードダイヤルを に合わせます。
2. 絞りを 位置にします。
3. 内蔵あるいは外付けストロボの充電完了を確認してから撮影します。

* 明るさによってシャッター速度は、1/100~1秒の間に変化します。



マニュアル露出の場合

1. マニュアル露出にします。
2. 適正露出になるようにシャッター速度 [1/100秒以下の低速] と絞りを選んでください。
3. 内蔵あるいは外付けストロボの充電完了を確認してから撮影します。

* シャッター優先自動露出でも低速シンクロができます。ただし、ストロボ充電完了前の状態で露出警告（絞り値表示の点滅）が出ていないことを確認してください。

* 低速シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、三脚などに固定してください。また、写される人が動いてしまっても、写真はぶれてしましますのでご注意ください。

専用アクセサリー[別売]について

このカメラには、各種専用アクセサリーが用意されています。詳しくは、各サービス窓口にお問い合わせください。

●ケーブルスイッチF

MZ-30、MZ-7、MZ-10、MZ-50、MZ-3、MZ-5、Z-1Pおよび645N等に使えるリリーズコード。

●マグニファイヤーF。

ファインダー中央部を拡大して見るアクセサリー。

●オートストロボAF500FTZ

ガイドナンバー50のAFスポットビーム内蔵オートズームストロボ。スレーブ機能、マルチ発光、光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

●オートストロボAF330FTZ

ガイドナンバー33のAFスポットビーム内蔵オートズームストロボ。光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

●ホットシューアダプターF_g、延長コードF5P、オフカメラシューアダプターF

AF500FTZ・AF240FT・AF330FTZ・AF400FTZをカメラから離してストロボ撮影するときのアダプターとコード。[接続方法は89ページをご覧ください]

●AFアダプター1.7×

オートフォーカス用でないレンズをオートフォーカス撮影するためのアダプター。

●マクロストロボAF140C

ガイドナンバー14の接写用ストロボ。

●レフコンバーターA

ファインダーを見る角度を90°間隔に変えることができるアクセサリー。倍率は1倍と2倍の切り替え式。

●フィルター

スカイライト・曇天用・UV・Y2・O2・R2・円偏光があります。フィルター径は49mm・52mm・58mm・67mm・77mmの5種類です。

●単3バッテリーパックF_g

単3電池を使用するための別売りバッテリーパックです。

アクセサリーの注意

- このカメラで使用できるレンズは、絞りに[A]位置のあるFA・F・Aレンズのみです。これ以外のレンズや、FA・F・Aレンズを絞り[A]位置以外で使用するとシャッターが切れません。
- F・FAソフト85mmF2.8および、FAソフト28mmF2.8レンズには、絞り[A]位置がありませんので使用できません。
- レフコンバーターA取付時、カメラの裏ぶた開閉を行うと、レフコンバーターAと接触します。裏ぶた開閉時は、レフコンバーターAを外してください。
- オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用するときは円偏光フィルターをご利用ください。また、露出の精度も低下しますので、円偏光フィルターの使用をお勧めします。
- ホットシューカバーに付いているホットシューカバーは、MZ-30とMZ-7専用品です。他の機種のものを使用すると、ストロボのオートポップアップが動かなくなります。

・下記のアクセサリーと組み合わせると、シャッターが切れなくなりますので、ご使用いただけません。

★接写用アクセサリー

- オート接写リングKセット
- オート接写リングK50mm
- オート接写リングK100mm
- ヘリコイド接写リングK
- オートベローズAセット
- リバースアダプターK49mm・52mm
- 接写リングKセット
- 顕微鏡対物レンズ用アダプターK
- 顕微鏡アダプターK

★マウント変換アダプター

- マウントアダプターK[シャッターは切れますが露出が合いません。]
- 645レンズ用アダプターK
- 67レンズ用アダプターK



高速シャッター



低速シャッター

写したい物[被写体]の適正露出を決めることは、シャッター速度と絞り値の組み合わせを決めることです。ところが、写したい物が同じ明るさであってもシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合せを選ぶことにより写真の効果を変えることができます。

シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムに当たっている時間を長くしたり、短くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

シャッター速度が遅ければ、シャッターの開いている時間が長くなるため、もし、このとき写したい物が動いていれば、当然写したい物がぶれてしまいます。逆にシャッター速度を速くすると、動きのある物でも動きを止めて写すことができます。また、写したい物が動いていなくてもシャッター速度を速くすると、シャッターを切るときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐ効果もあります。また、川や滝、波などを低速のシャッター速度で写すと動感のある写真になります。



小絞り側



開放絞り側

絞りの効果

絞りは、レンズを光が通るときの光束[光の太さ]を大きくしたり、狭くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

絞りを開いて光束を広くすると、ピントを合わせた物に対してその前後の物のボケが大きくなります。つまり、ピントの合う範囲[被写界深度]が狭くなります。逆に、絞りを絞って光束を狭くすると、ピントの合う範囲が広くなります。

例えば、風景の中で人物を撮影するときに、絞りを開いて撮影すると、ピントを合わせた人物の前後の風景のボケが大きくなるため、人物だけが浮かび上がる効果があります。

逆に、絞りを絞ると前後の風景にまでピントを合わせることができます。

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください

症 状	原 因	処 置	参 照 ページ
シャッターが切れない。	レンズの絞りが[A]位置以外になっている。	絞りを[A]位置にしてください。	12 ページ
	電源がOFFになっている。	電源をONにしてください。	26 ページ
	バッテリー警告 [!] が点滅している。	電池を交換してください。	19 ページ
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。	19 ページ
	モードダイヤルが[ISO]位置か[■]位置になっている。	モードダイヤルを[ISO]、[■]以外の位置にしてください。	74、84 ページ
	内蔵ストロボが充電中である。	充電されるまで待ってください。	44 ページ
表示パネルに表示が出ない。	電源がOFFになっている	電源をONにしてください。	26 ページ
	電池が入っていない。	電池を入れてください。	19 ページ
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。	19 ページ
	電池が完全に消耗している。	電池を交換してください。	19 ページ
ピントが合わない。	ピントを合わせたい物[被写体]がAFフレーム [] の範囲内に入っていない。	写したい物をAFフレーム [] に入れて撮影してください。	42 ページ
	写したい物に近づきすぎている。	写したい物から離れてください。	43 ページ
	フォーカスモードレバーが[MF]になっている。	フォーカスモードレバーを[AF]にしてください。	41 ページ
	オートフォーカスの苦手な物	マット部分を利用して手動でのピント合わせをしてください。	78 ページ

症 状	原 因	処 置	参 照 ページ
メモリーロックや露出補正が働かない。	マニュアル露出では、メモリーロックや露出補正是できません。	マニュアル露出以外のモードにしてください。	69 ページ
ファインダー内の [] が点滅する。	撮影する距離が近すぎたり、オートフォーカスの苦手な物などのためピント合わせができない。	マット部分でのピント合わせをご利用ください。	78 ページ
内蔵ストロボが充電しない。	バッテリー警告 [!] が点滅している。	電池を交換してください。	19 ページ
強制発光ボタンを押しても内蔵ストロボが上がらない。	モードダイヤルが [④] 位置になっている。	モードダイヤルを [④] 位置以外にしてください。	37 ページ
内蔵ストロボが自動で上がらない。	露出モードがピクチャーモード以外になっている。	露出モードをピクチャーモードにしてください。	45 ページ
	専用品以外のホットシューカバーを付けている。	専用のホットシューカバーを付けてください。	95 ページ
内蔵ストロボが上がっているのにストロボが光らない。	[AUTO] が表示されているときは、写すものが明るいとストロボは発光しません。		36 ページ
パワーズームが動かない。	このカメラはパワーズームに対応していません。		39 ページ

静電気などの影響により、希にカメラが正しい作動をしなくなることがあります。このような場合には、一旦電池を入れ直してみてください。また、ミラーが上がったままになった場合には、電池を入れ直してから電源をONにし、シャッターボタンを押し込んだまま電源をOFFにすると、ミラーが下がります。これらを行ないカメラが正常に作動すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

型式	TTLストロボ内蔵 TTL AE・AF35mm一眼レフカメラ
画面サイズ	24×36mm
使用フィルム	35mm フィルム [J135 パトローネ入り] 35mmDX フィルム = ISO25~5000、手動セットは ISO6~6400
露出モード	ピクチャーモード [標準モード、人物モード、風景モード、近接モード、動体モード、夜景モード]、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出、マニュアル露出、バルブ
シャッター	電子制御式継走りフォーカルプレーンシャッター、オートシャッター = 1/2000 秒 ~ 30 秒 [無段階]、マニュアルシャッター = 1/2000 秒 ~ 30 秒、バルブ、電磁リリーズ、電源 OFF でシャッターロック
レンズマウント	ペンタックスバヨネット K _{AF} マウント [AF カーブー、レンズ情報接点付 K マウント]
使用レンズ	K _{AF} [パワーズーム不可]、K _{AF} マウントレンズ K _A マウントレンズ [AF アダプター使用で AF 可能]
オートフォーカス機構	TTL位相差検出式 (SAFOX VI)、オートフォーカス作動輝度範囲 Ev0~18 [ISO100] [F1.4 レンズ付き]、フォーカスロック可能、フォーカスマード = AF [動体予測可] / MF
パワーズーム	不可
ファインダー	ペンタミラーファインダー、ナチュラルライトマットフォーカシングスクリーン、視野率 92%、倍率 0.7 倍 [50mm・∞]、視度 = -2~+1m ⁻¹ [毎メートル]、AF フレーム
ファインダー内表示	フォーカス表示 [] 合焦 = 点灯 合焦不能 = 点滅、シャッター速度表示、絞り表示、[] = ストロボ情報、バーグラフ = 露出補正值 マニュアル露出時のオーバー・アンダー表示、[] = 標準モード、[] = 人物モード、[] = 風景モード、[] = 近接モード、[] = 動体モード、[] = 夜景モード、* = メモリーロック
LCDパネル表示	[Tv 8865] = シャッター速度、[AV 8.8] = 絞り値、[] = ストロボ情報 [] = 遅い点滅 = 手ぶれ警告 [] = 速い点滅 = 不適切レンズ警告、[] = 赤目軽減機能、[] = オートボップアップ・ストロボ自動発光、[] = ストロボ発光禁止、フィルム感度、ISO、[] = パトローネ・フィルム走行・巻き取り、[] = 電池消耗、[] = 電子音、[] = 露出補正、[] = 露出補正值・フィルム枚数、[] = セルフタイマー、[] = 連続撮影、[] = 多重露出

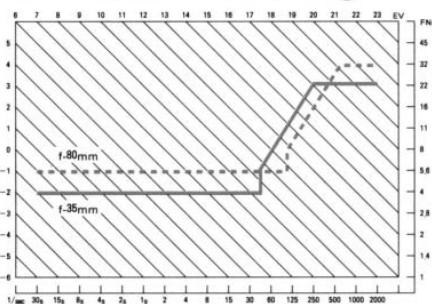
セルフタイマー	電子制御式、始動はシャッターボタン、作動時間 12 秒 [電子音]、作動後解除可能
ミラー	クイックリターンミラー、オートフォーカス用第 2 ミラー付
フィルム入れ	オートローディング、裏ぶた閉じにより 1 枚目まで自動巻き上げ、裏ぶたにフィルム情報窓付
巻き上げ・巻き戻し	内蔵モーターによる自動巻き上げ・巻き戻し式、1 コマ撮影・連続撮影 [約 2 コマ/秒]、フィルム終了時自動巻き戻し、フィルム走行・巻き戻し完了を LCD 表示、途中巻き戻しボタンによる途中巻き戻し可能
露出計・測光範囲	TTL開放分割測光 (6 分割)、測光範囲 50mm F1.4 ISO100 EV0~21
露出補正	±3EV [1/2EV ごと] 設定可能
メモリーロック	ボタン式 (タイムマード 20 秒間) シャッターボタン半押して継続
内蔵ストロボ	直列制御 TTL ストロボ内蔵、ガイドナンバー 11 [ISO100/m] 28mm レンズをカバー、同調速度 1/100 秒以下、日中シンクロ 低速シンクロ 光量比制御可能 ISO 連動範囲 = 25~800、オートボップアップ・自動発光可能、赤目軽減機能
シンクロ	ホットショュー [X 接点専用ストロボ接点付き] 専用ストロボ連動 ISO 連動範囲 = 25~800、自動発光可能、赤目軽減機能可能
電源	3V リチウム電池 CR2 2 個
電池消耗警告	バッテリーマーク [] 点灯 [点滅時シャッターロック、ファインダー内表示は消灯]
裏ぶた	交換可能
大きさ・質量 [重さ]	135.5mm [幅] × 92mm [高] × 63.5mm [厚] 375g [ボディーのみ 電池別]
付属品	ホットショーカバー FK、リリーズソケットキャップ F、カメラストラップ FK、アイカップ FK、ファインダーキャップ

データバック仕様

機構	クォーツ制御、液晶表示式、デジタル時計、オートカレンダー [西暦 2049 年まで、閏年は自動修正]
写し込み方法	7 セグメント 6 桁 LCD、フィルム背面より写し込み
表示	データ表示窓に LCD 表示、表示写し込み時 [] が 2~3 秒間点滅
種類	①年・月・日、②日・時・分、③ [---] [データ写し込み無し]、④月・日・年、⑤日・月・年
使用フィルム感度	ISO25~1600 [感度自動セット]
電源	CR2025 [リチウム電池]
発光回数	約 5000 回

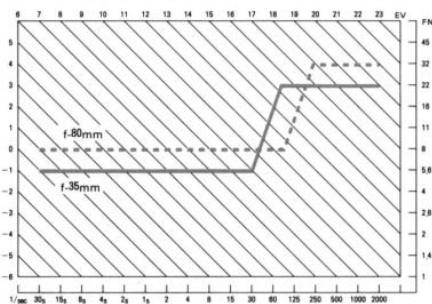
プログラム線図

プログラム線図[標準モード] ☺



ISO100 FA35~80mmF4~5.6

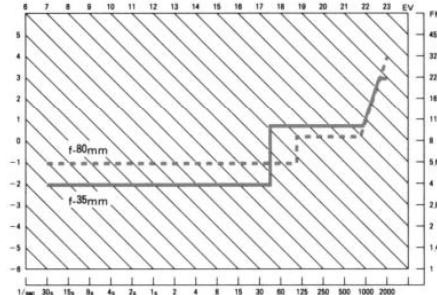
プログラム線図[風景モード] ▲



ISO100 FA35~80mmF4~5.6

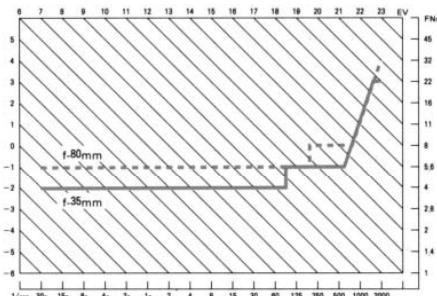
プログラム線図

[人物モード]



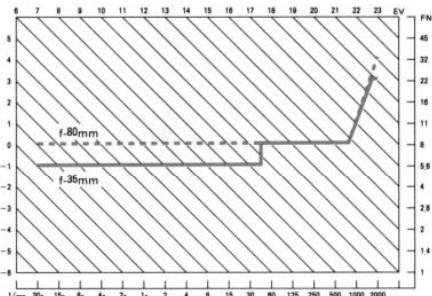
ISO100 FA35~80mmF4~5.6

プログラム線図[動体モード] 🏃



ISO100 FA35~80mmF4~5.6

プログラム線図[近接モード] 🌸

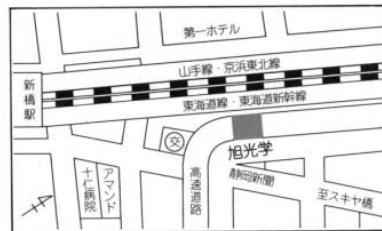
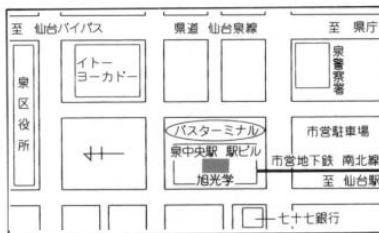


ISO100 FA35~80mmF4~5.6

お問い合わせは次の各サービス窓口へ



ベンタックスフォーラム
(ショールーム・写真館・修理受付)
☎03(348)2941㈹
〒163-0401
東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル1階
(私書箱240号)



東京サービスセンター
☎03(3571)5621㈹
〒104-0061
東京都中央区銀座西8-10
(土橋交差点文番並び)



札幌サービスセンター
☎011(612)3231㈹
〒060-0010
札幌市中央区
北10条西18-36
ベンタックス札幌ビル4階



■営業時間：●ベンタックスフォーラム
午前10時30分～午後6時30分

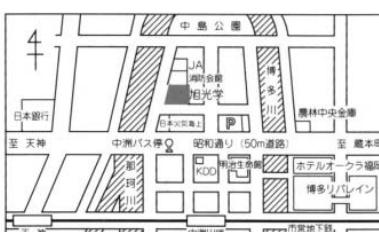
●各サービスセンター、お客様相談室
午前9時～午後5時（土・日・祝日休業）



大阪サービスセンター
☎06(6271)7996㈹
〒542-0081
大阪市中央区南船場1-17-9
パールビル2階



広島サービスセンター
☎082(234)5681㈹
〒733-0035
広島市西区南観音3-5-2
空港通りビル6階



福岡サービスセンター
☎092(281)6868㈹
〒810-0802
福岡市博多区中洲中島町3-8
パールビル1階

仙台サービスセンター

☎022(371)6663㈹
〒981-3133
仙台市泉区泉中央1-7-1
千代田生命泉中央駅ビル5階

横浜サービスセンター

☎045(232)5281㈹
〒231-0047
横浜市中区羽衣町2-7-10
日本生命関内ビル8階

名古屋サービスセンター

☎052(962)5331㈹
〒461-0001
名古屋市東区泉1-19-8

お客様相談室

☎03(3572)6479
〒104-0061
東京都中央区銀座西8-10
(土橋交差点文番並び)

アフターサービスについて

- ・旭光学のサービス窓口では、ペンタックスカメラをはじめ、各種交換レンズやアクセサリーが展示され、手にとってご覧になれます。また、種々のご相談にも応じておりますので、お気軽にお立ち寄りください。
 - ・他社製品[レンズ、アクセサリー等]との組み合わせ使用に起因する故障については有料となります。
1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている最寄りの当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の場合は、化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかり梱包してお送りください。不良見本のフィルムやプリント、また故障内容の正確なメモを添付していただけたと原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中[ご購入後1年間]は、保証書[販売店印および購入年月日が記入されているもの]をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社各サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。また、販売店または当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。

3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
 - ・使用上の誤り(使用説明書記載以外の誤操作等)により生じた故障。
 - ・当社の指定する修理取扱い所以外で行われた修理・改造・分解による故障。
 - ・火災・天災・地変等による故障。
 - ・保管上の不備(高温多湿の場所、防虫剤の入った場所での保管等)や手入れの不備(泥・砂・ホコリ・水かぶり・ショック等)による故障。
 - ・保証書の添付のない場合。
 - ・販売店や購入日等の記載のない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので当社の各サービス窓口にお問い合わせください。
6. 海外旅行をなさる場合は国際保証書をお持ちください。国際保証書は、各サービス窓口でお手持ちの保証書と交換に国際保証書を発行しております。
[保証期間中のみ有効]

保証内容について詳しくは、保証書をご覧ください。

さくいん

あ行

アイカップ	54
赤目軽減機能	46
赤目現象	46
後幕シンクロ	89
裏ぶた	28
裏ぶた開放レバー	28
液晶表示 [LCD]	10
オートポップアップ	36

か行

カメラの構え方	40
強制発光ボタン	48
近接モード	61
ケーブルスイッチF	71
光量比制御	90

さ行

三脚	52、71
視度調整	33
絞りの効果	97
絞り優先	64

シャッター速度の効果	96
シャッターボタン	25
シャッター優先	66
手動ピント合わせ	76
人物モード	59
ストラップ	18
ストロボ撮影	44、48、88
ストロボ自動発光	36
ストロボオートポップアップ	36
ストロボ発光禁止	37
ストロボモードボタン	45
スナップインフォーカス	78
ズームレンズ	39
セルフタイマー撮影	52
側面ボタン	68、72
外付けストロボ	88

た行

多重露出	55
途中巻き戻し	32
低速シンクロ撮影	93
電源	26
電池交換	19

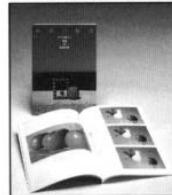
電池消耗警告	22
電池ぶた	19
データボタン	27、86、87
電子音	74
電池	19
動体モード	62
動体予測	43
ドライブボタン	51
ドライブモード	51
な行	
日中シンクロ撮影	92
内蔵ストロボ	36、44、48
は行	
バーグラフ	69、72
バルブ撮影	71
パワーズーム	39
ピクチャーモード	56
日付や時刻の写し込み	27
日付や時刻の修正	86
ピント合わせ	42
標準モード	58

ら行

レンズ 着脱	23
連続撮影	52
露出補正	72
英数字	
1コマ撮影	38
6分割測光	11
AFフレーム	42
AF補助光	46
DXフィルム	28
ISO 感度(フィルム感度)	28、84
TTLオートストロボ	88

分割測光	11
ホットシュー	88
表示パネル	10
ファインダー	11
フィルム感度	28、84
フィルム先端マーク	29
フィルム枚数	30
フィルムを入れる	28
フィルムを途中で取り出す	32
フィルムを取り出す	31、32
フォーカスモードレバー	41、76
プログラム線図	102、103
補助光	46
ま行	
マウント	15、24
マニュアル露出	68
メモリーロック	75
や行	
夜景モード	63

「林檎の秘密」
すぐに役立つ写真の基礎知識



露出の仕組みや光の測り方、
ピントの合わせ方など写真
の基礎を豊富なイラストと
作例でわかりやすく解説し
ています。お買い求めは、
ペンタックスサービス窓口・
ペンタックスファミリーま
たは、最寄りのカメラ店で。



旭光学工業株式会社

〒174-8639 東京都板橋区前野町2-36-9

ペンタックス販売株式会社

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブです。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。

お申し込み・お問い合わせは下記ペンタックスファミリー事務局まで。

〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-1

三宅坂ビル3階 ☎03 (3580) 0336

☆この使用説明書には再生紙を使用しています。

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。 03-0008-2